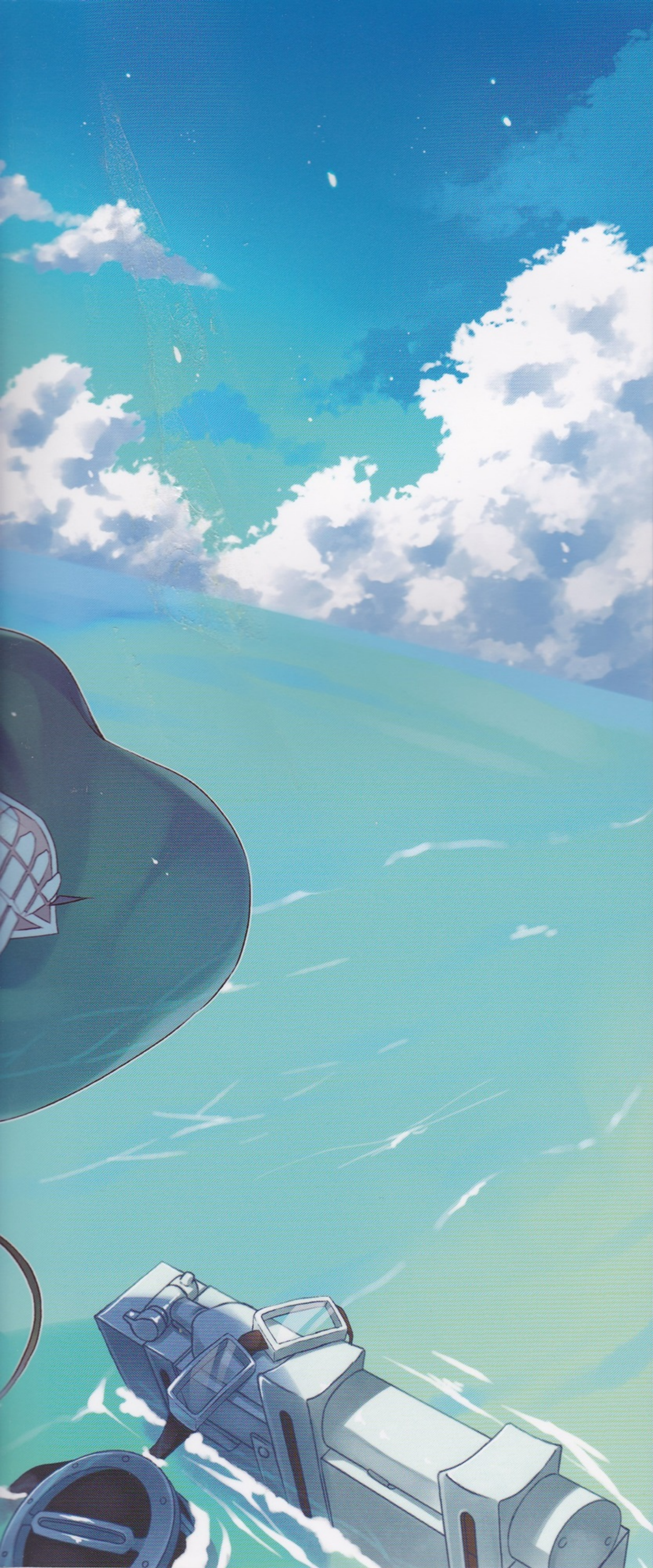




コイルとエンジン

R18  
ADULT  
ONLY



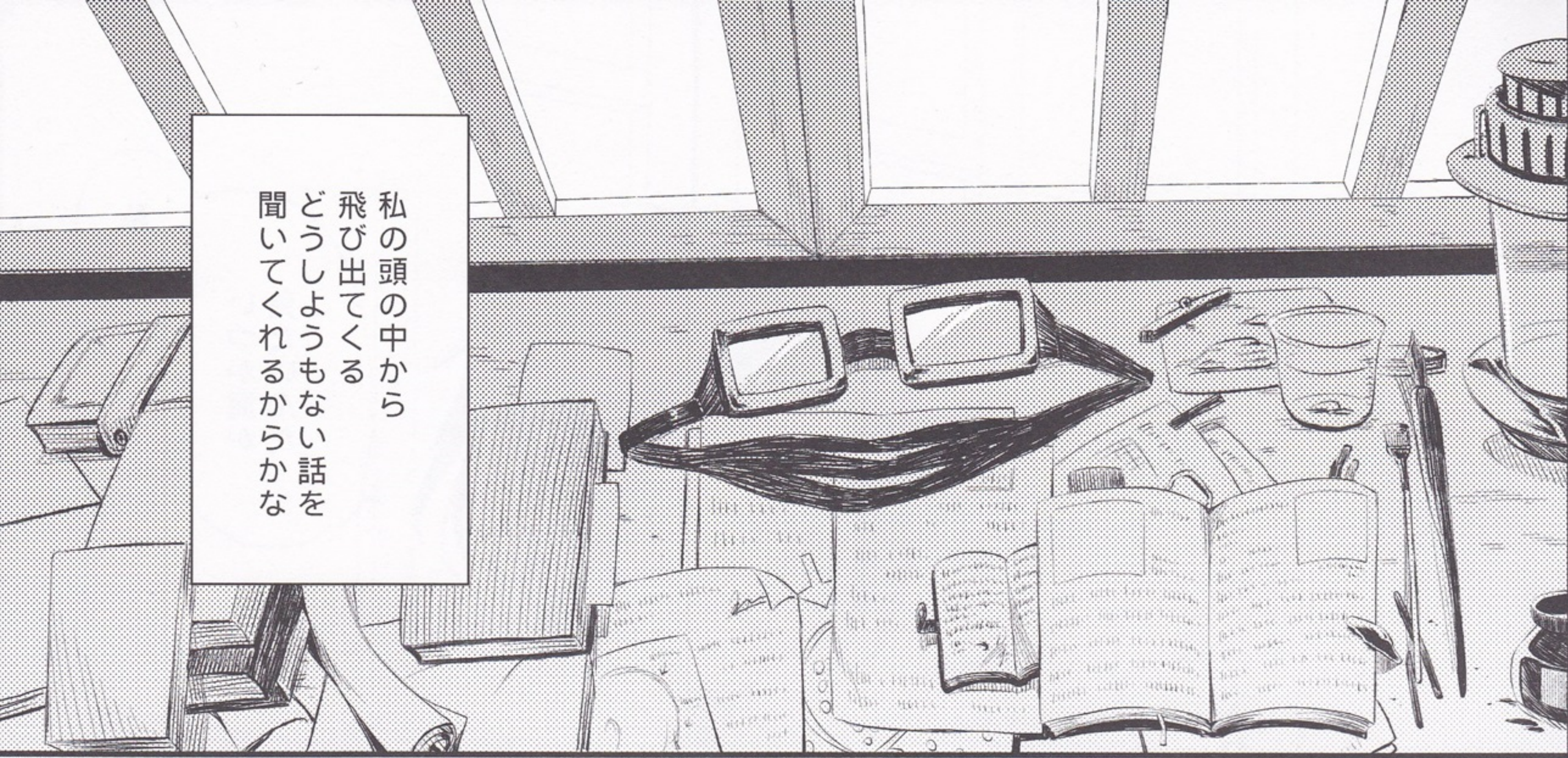
Attack on Titan  
Fanbook  
presented by Affix



本書は成人向けです。未成年の閲覧・所持を禁じます。

リヴァハン過去捏造話です。

私の頭の中から  
飛び出てくる  
どうしようもない話を  
聞いてくれるからかな



それとも…



背中を預けあったり  
していたからかな



そんな日々が  
続いていたから

つい零れてしまったんだろう





私ね

いつか海が  
見たいんだ

その時は  
一緒に見ようね  
リヴァイ



海？

壁の外の世界に  
あるって言われてる

ボスニッ

そうだなあ  
湖がずっと  
続いている感じ

でも  
その水には  
塩分が含まれていてね  
濃度はおよそ3%前後

ガッ



ぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐ

その話は  
長くなるのか…?

付き合っつてよ



ア

ちゅー

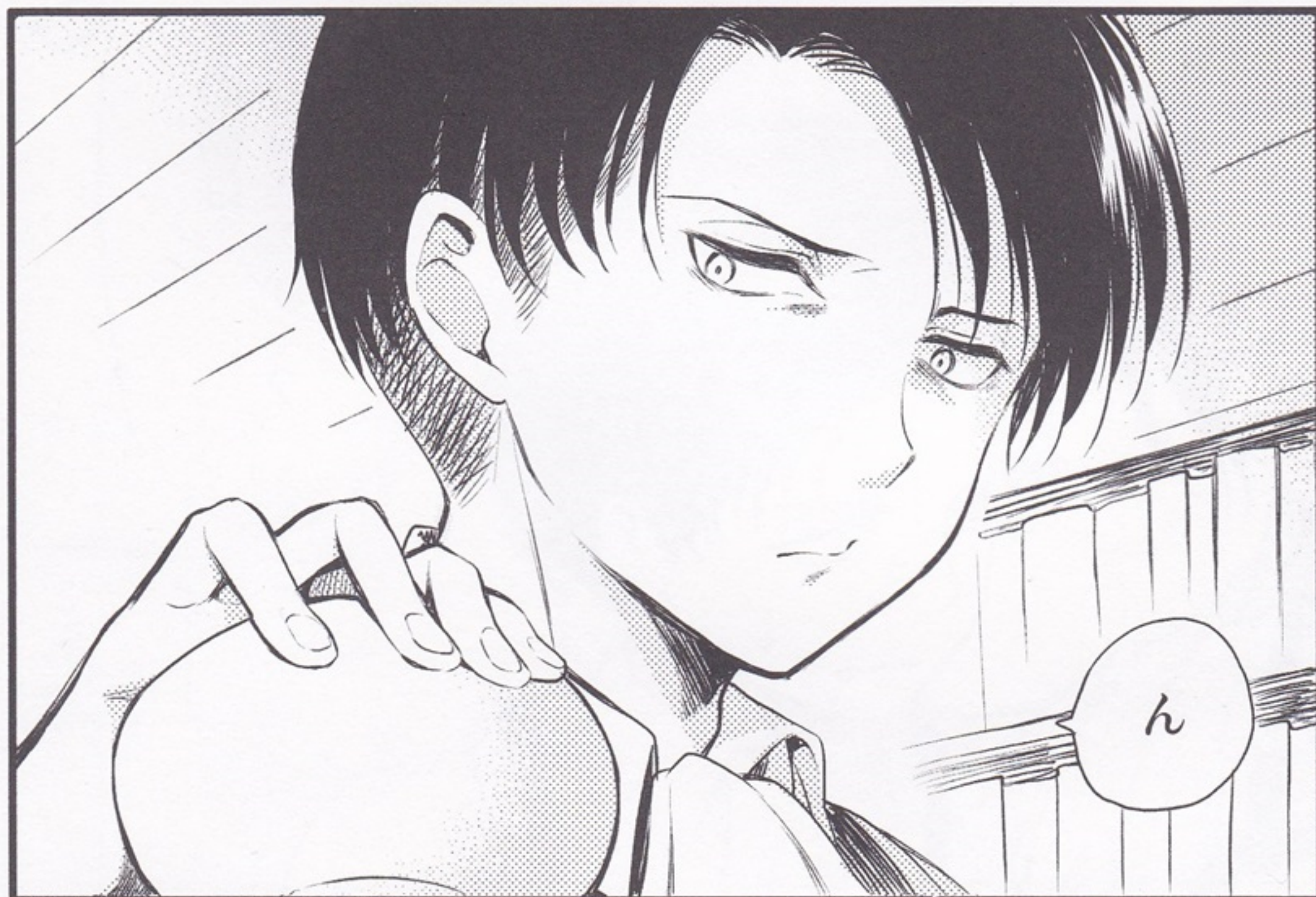
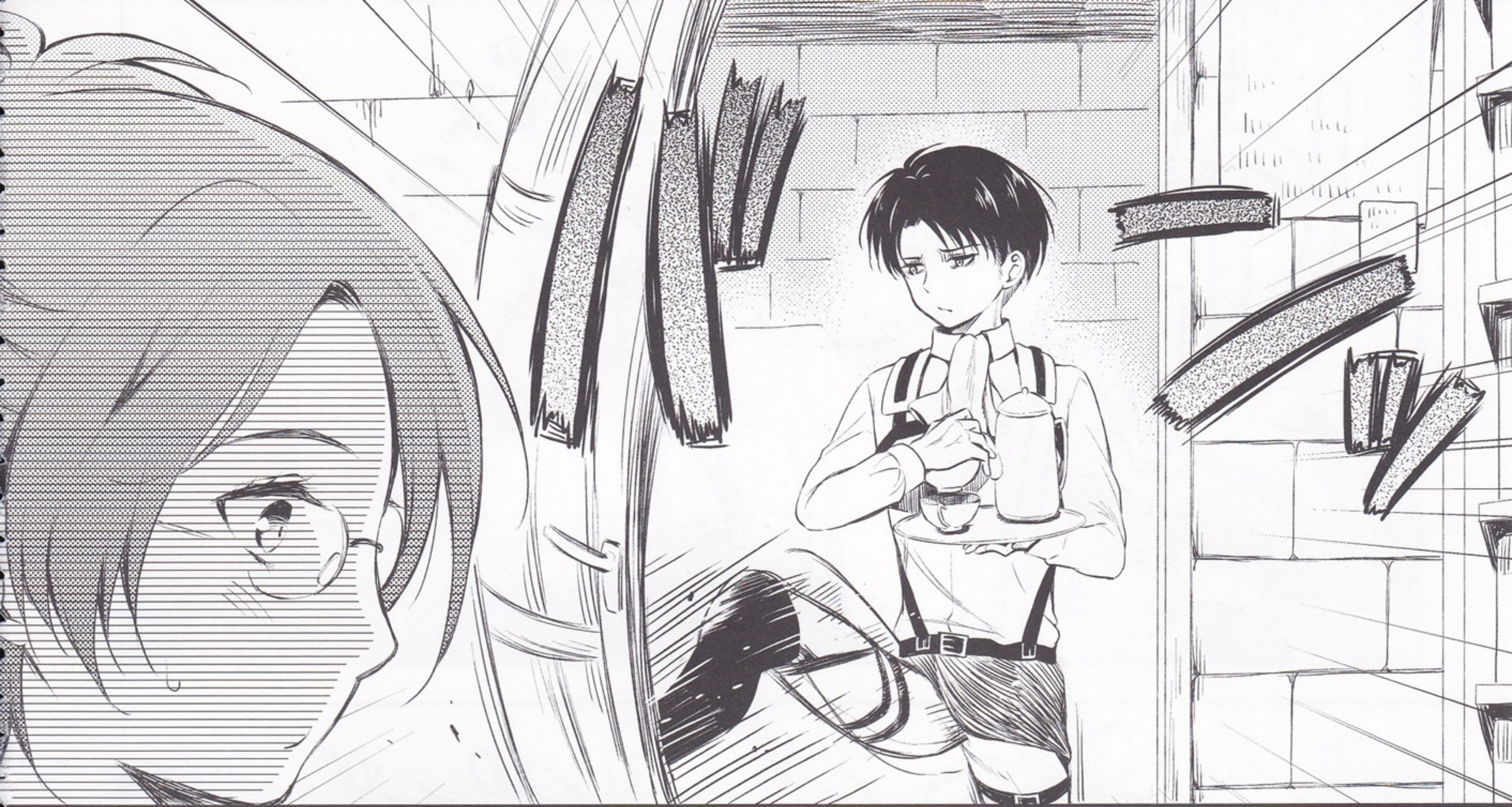
カッ

おーい  
リヴァイ

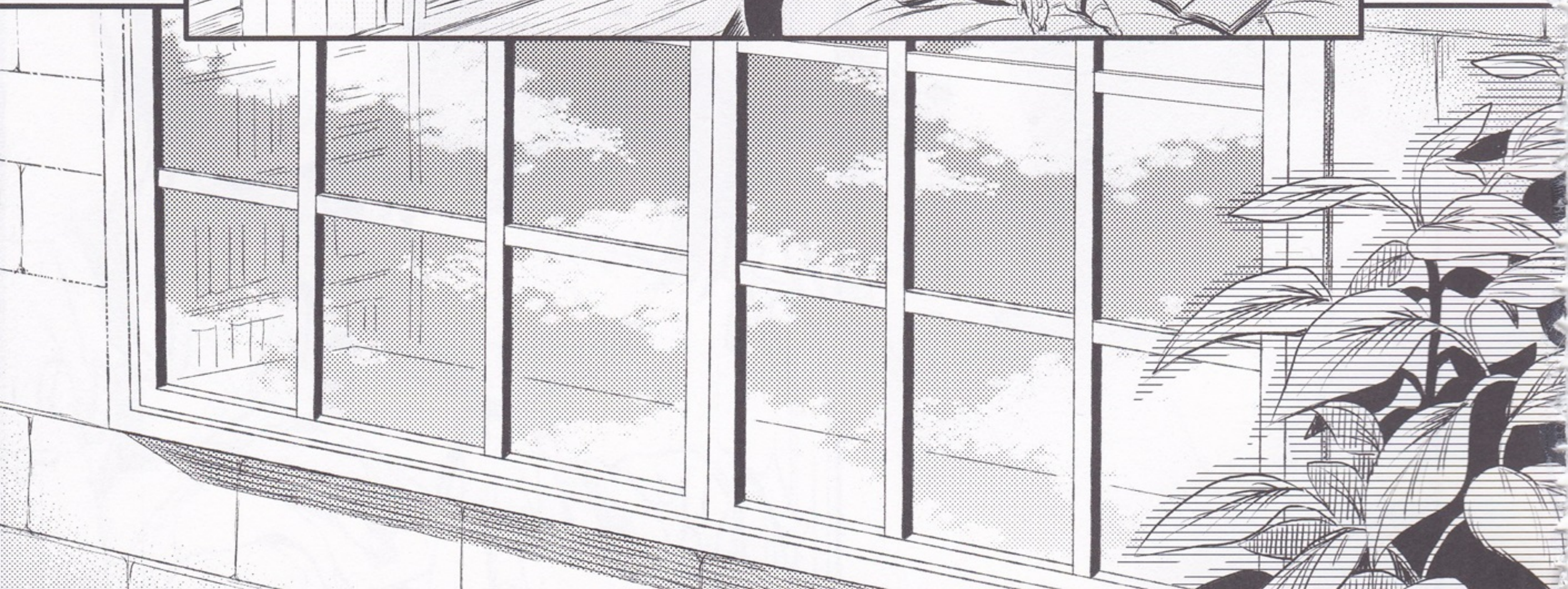
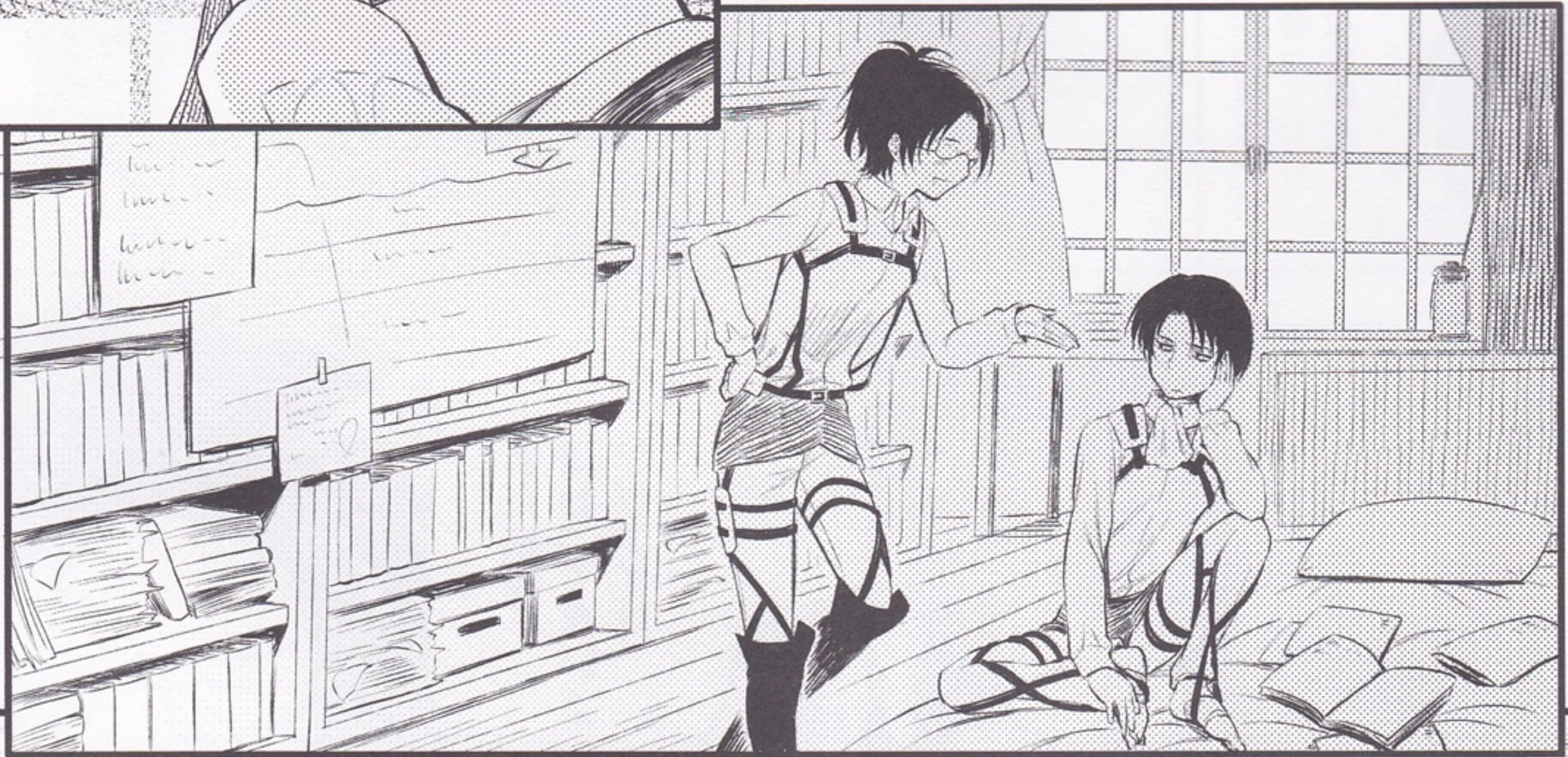
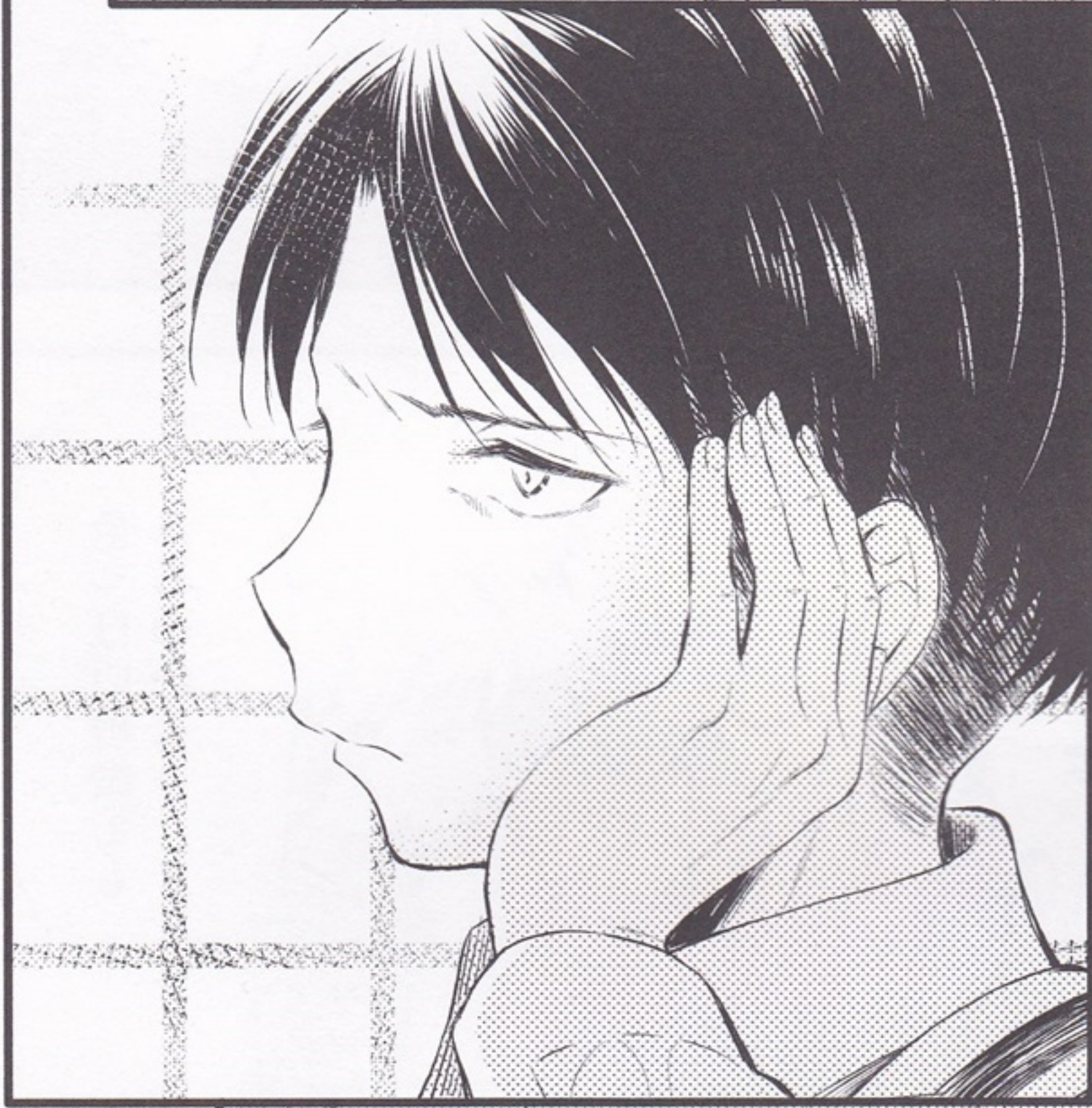
ハッ

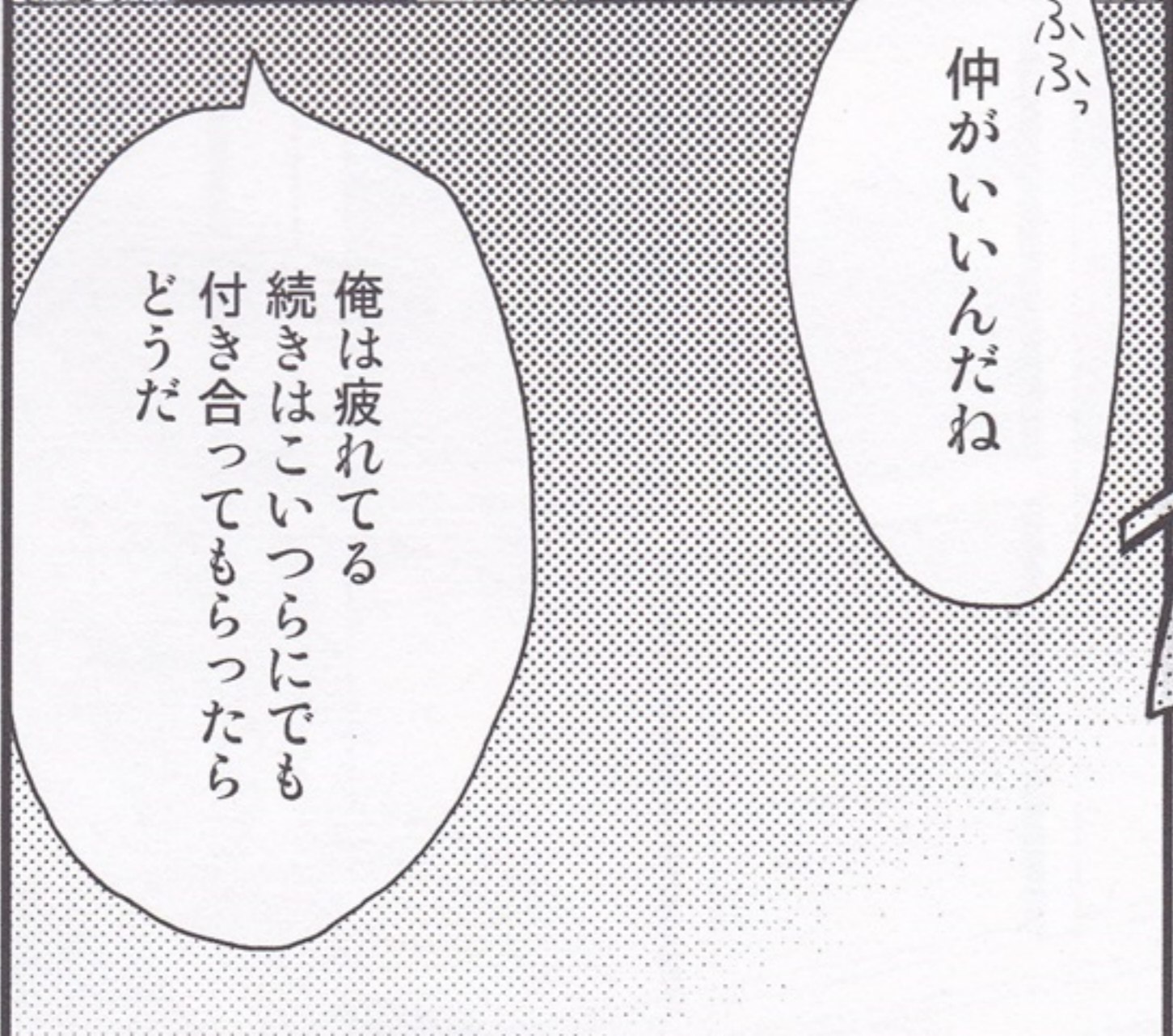
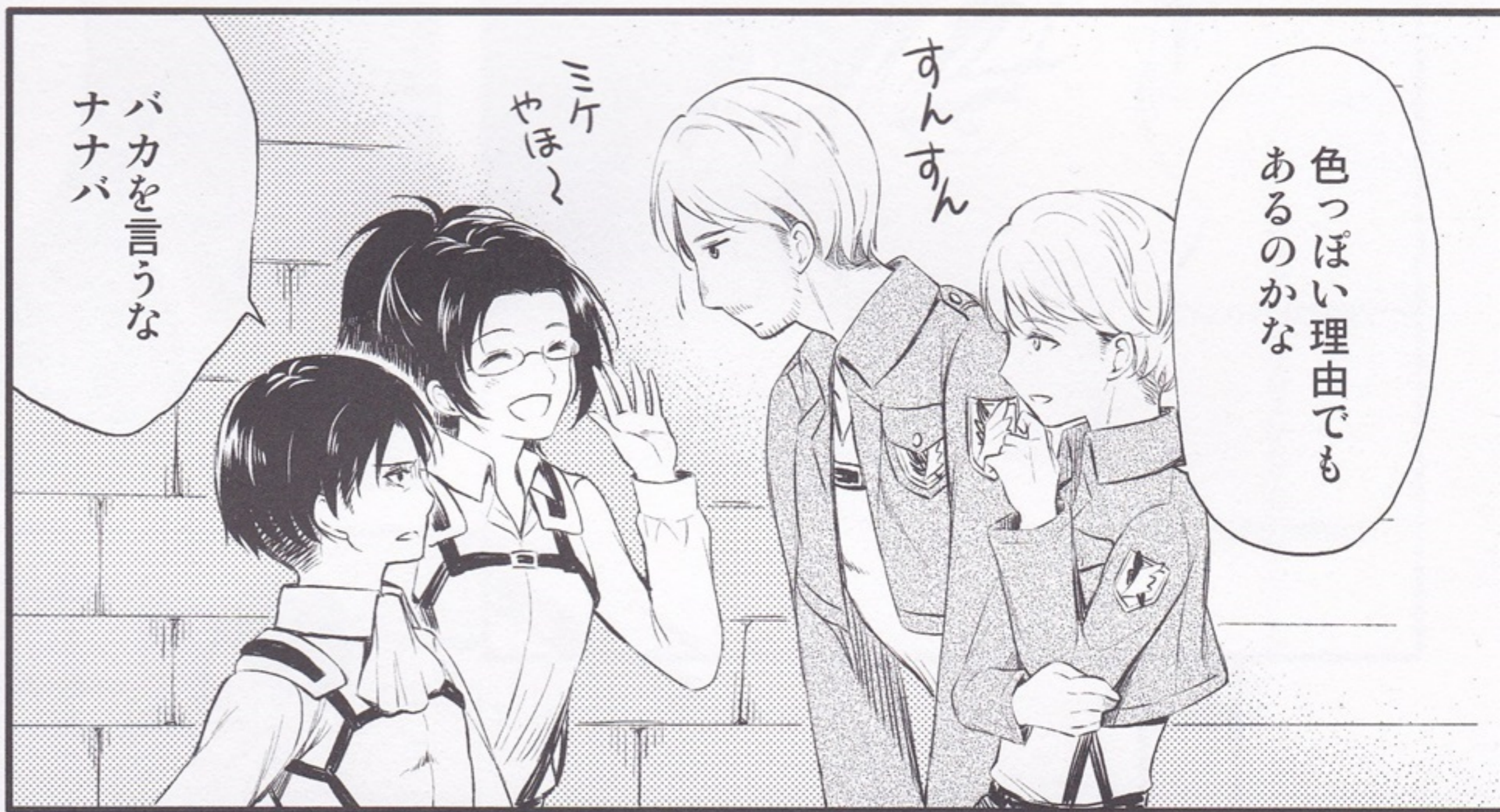
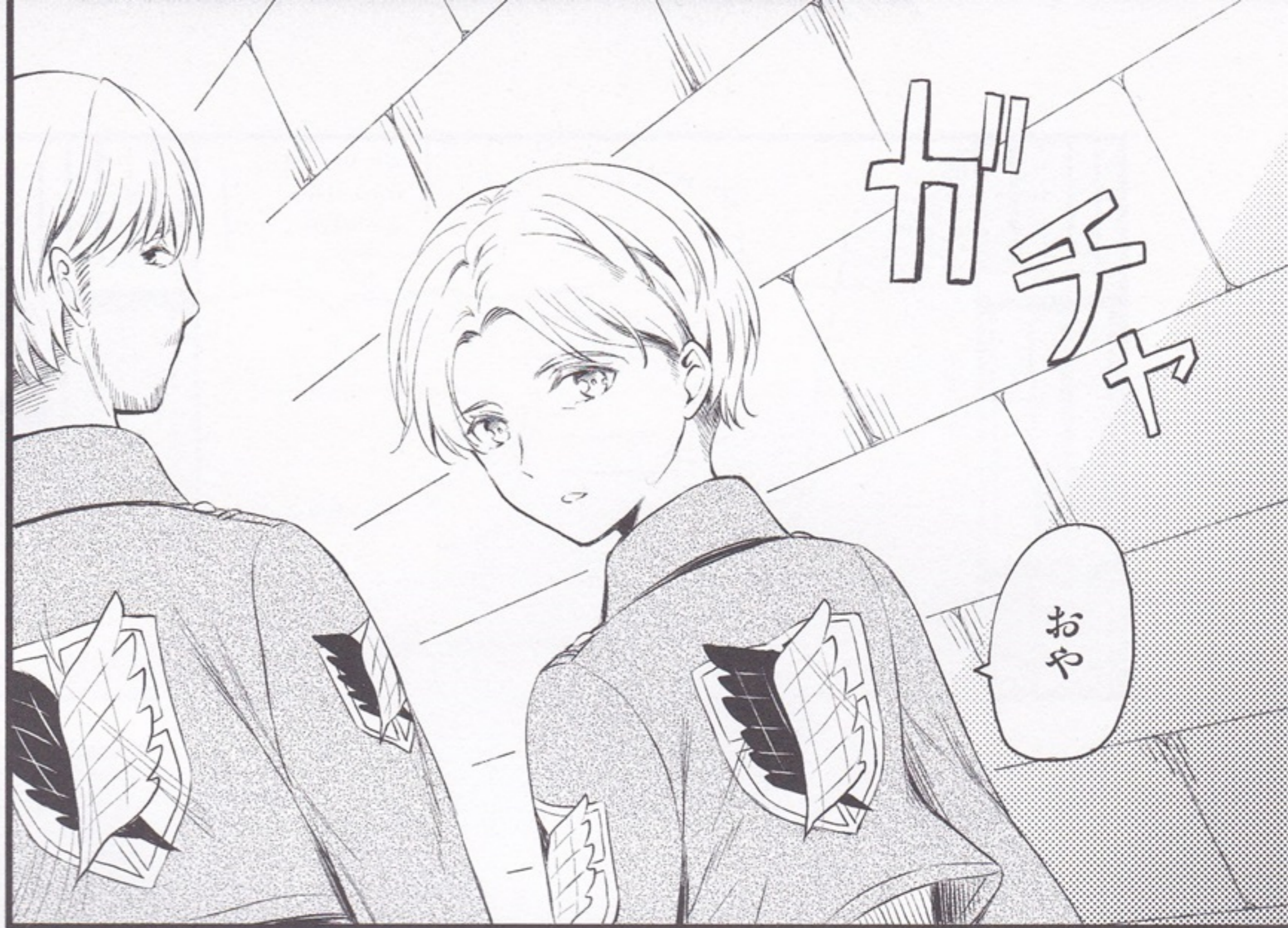
あっ

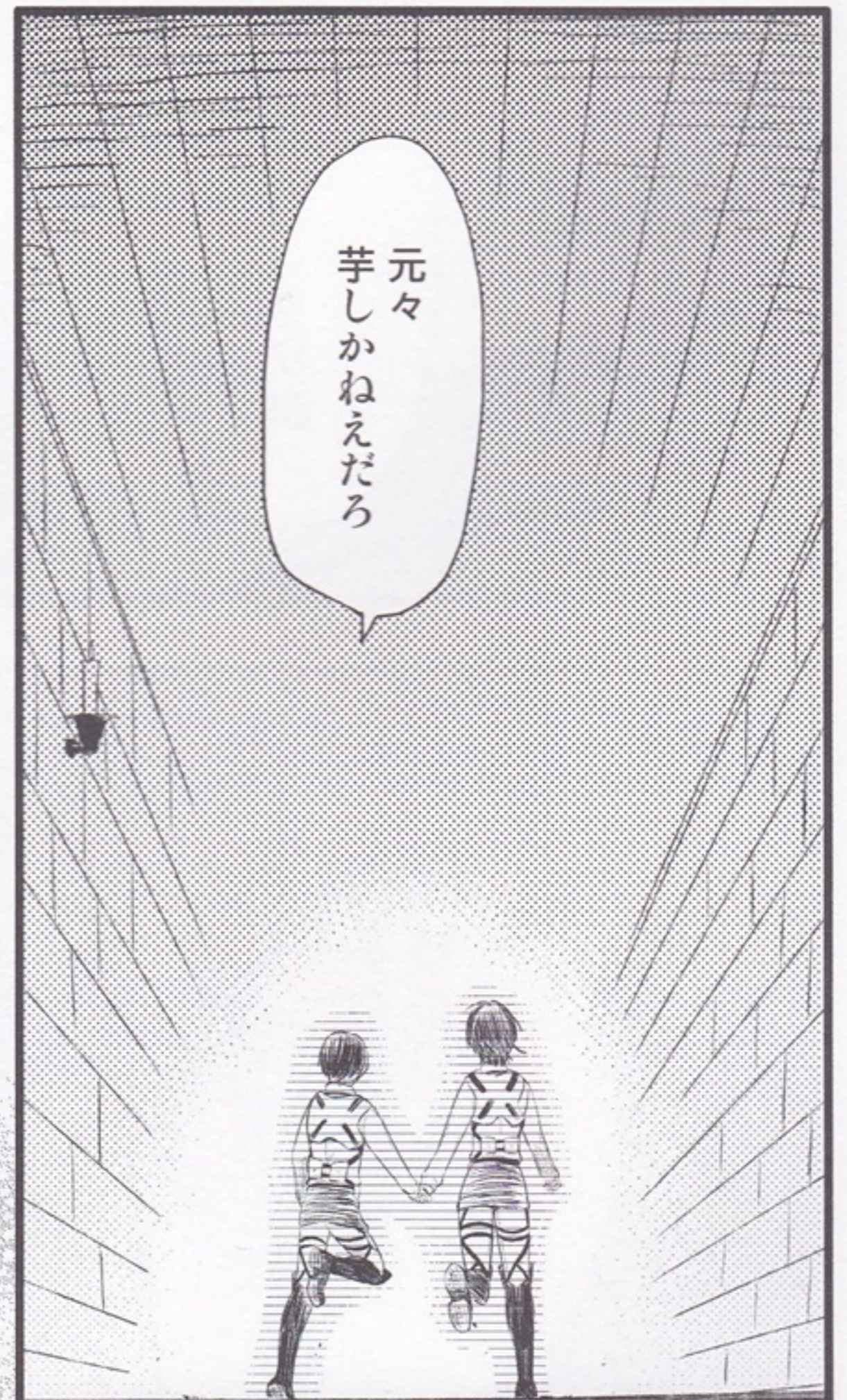
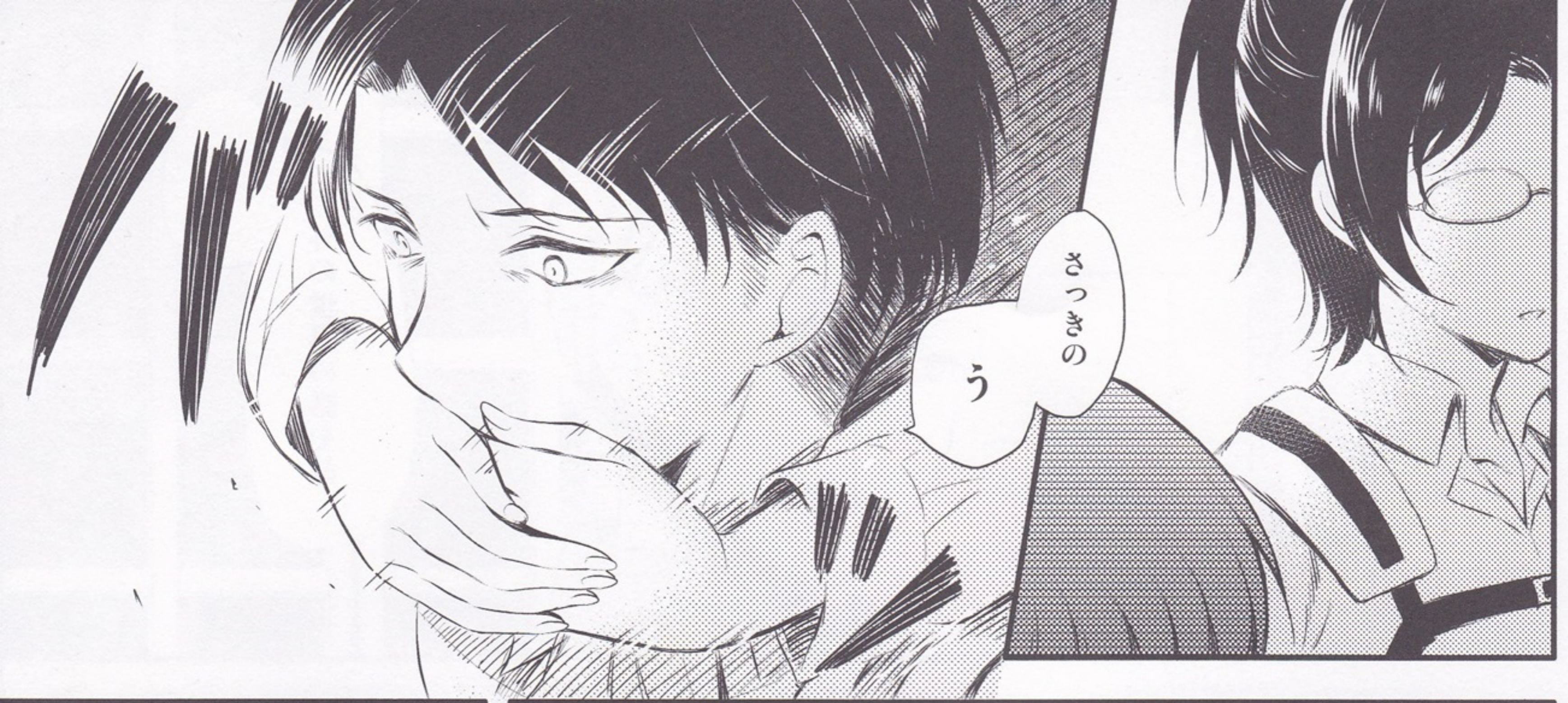


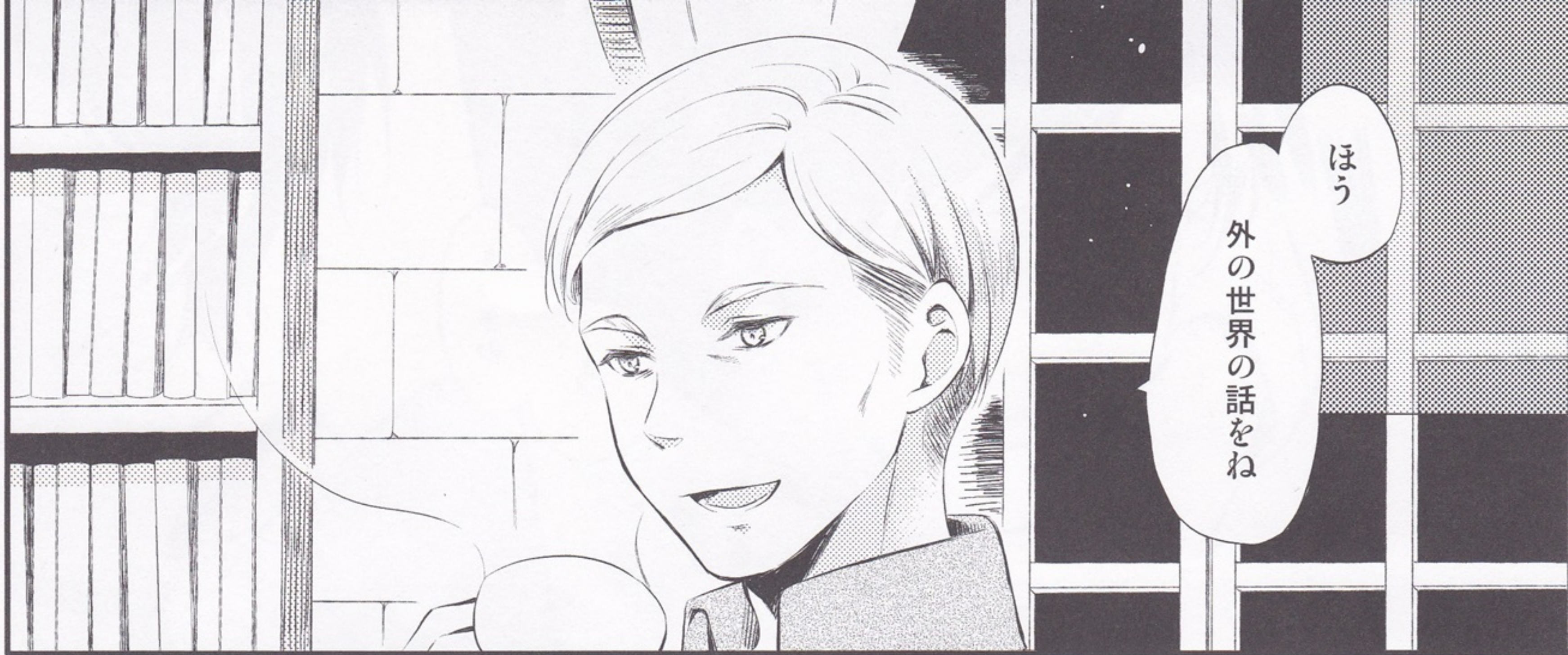






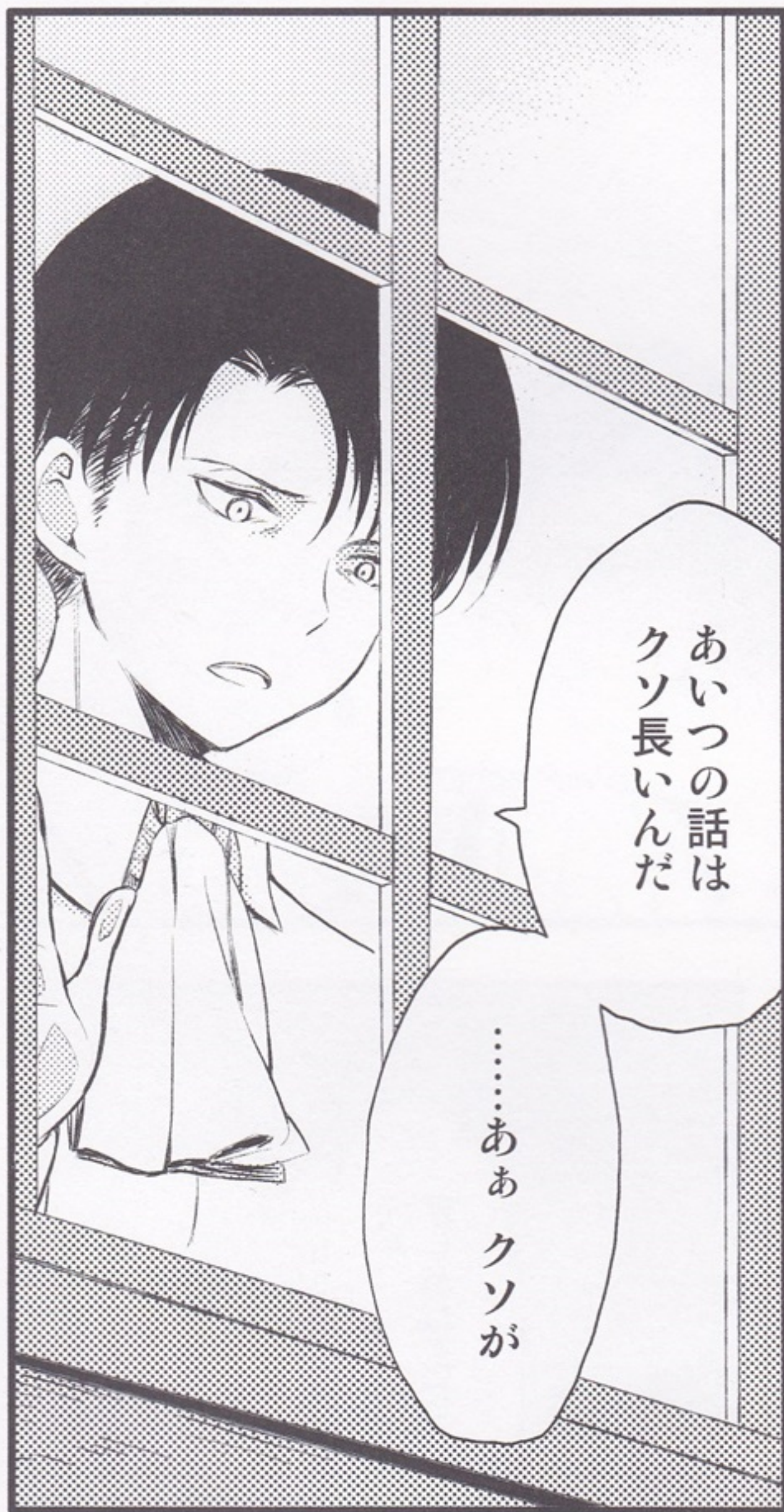






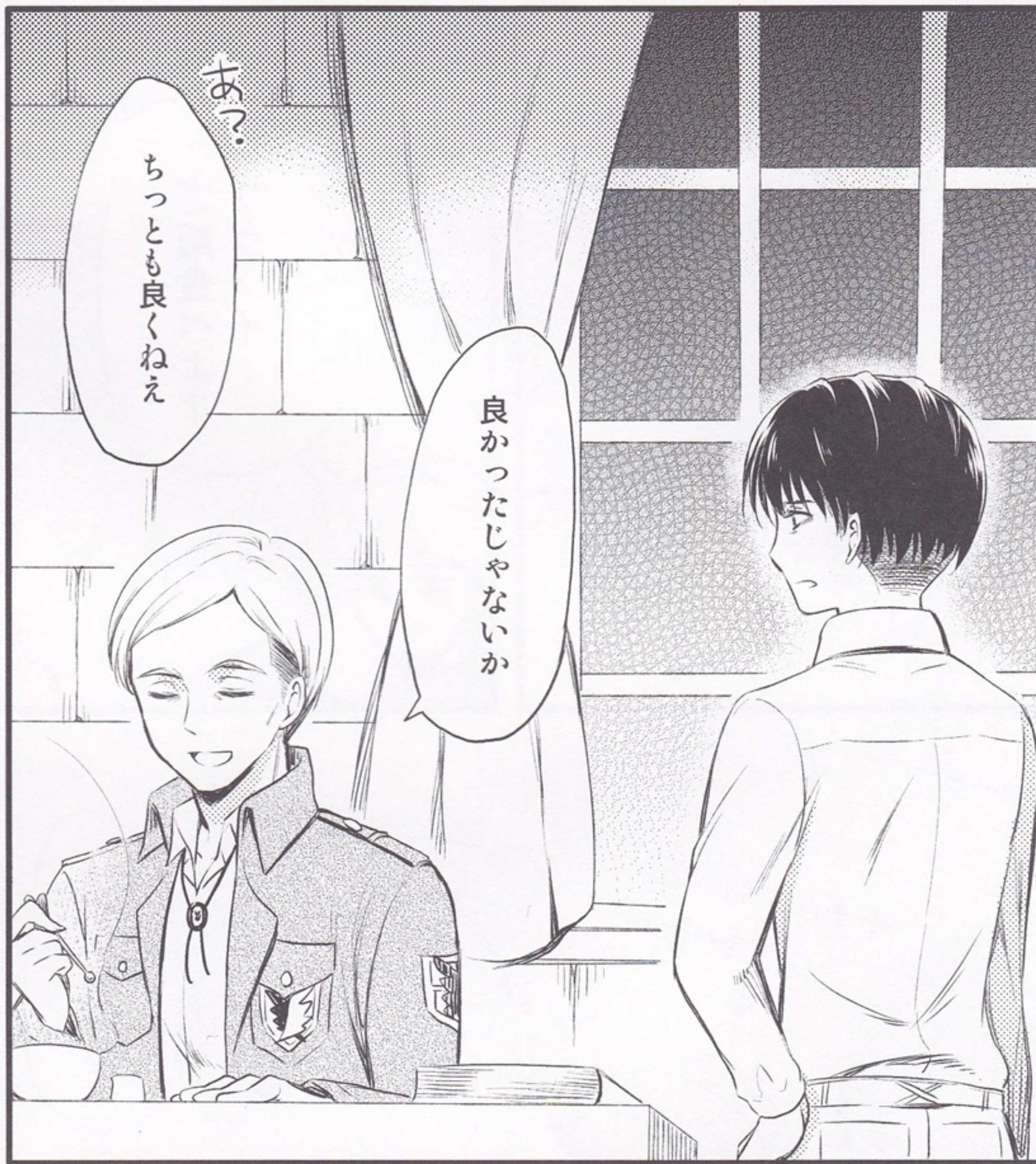
ほう

外の世界の話だね



あいつの話は  
クソ長いんだ

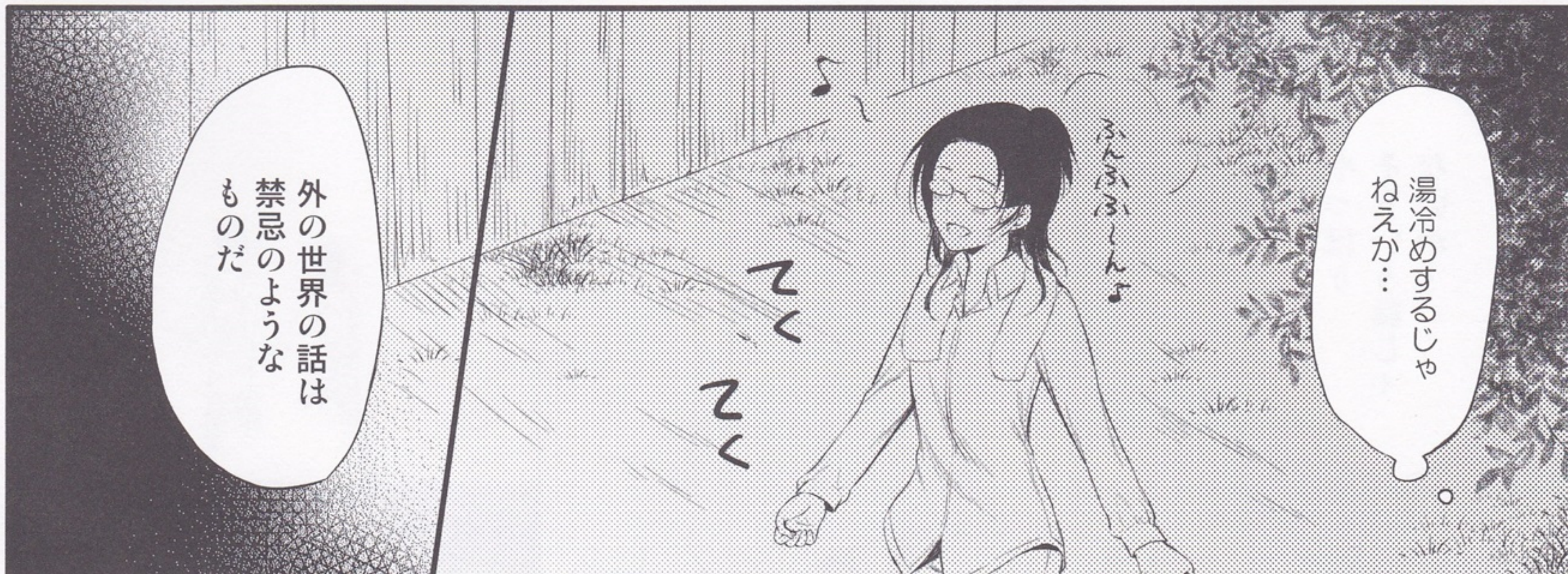
……ああクソが



あつ?

ちつとも良くねえ

良かったじゃないか



湯冷めするじゃ  
ねえか…

外の世界の話は  
禁忌のような  
ものだ



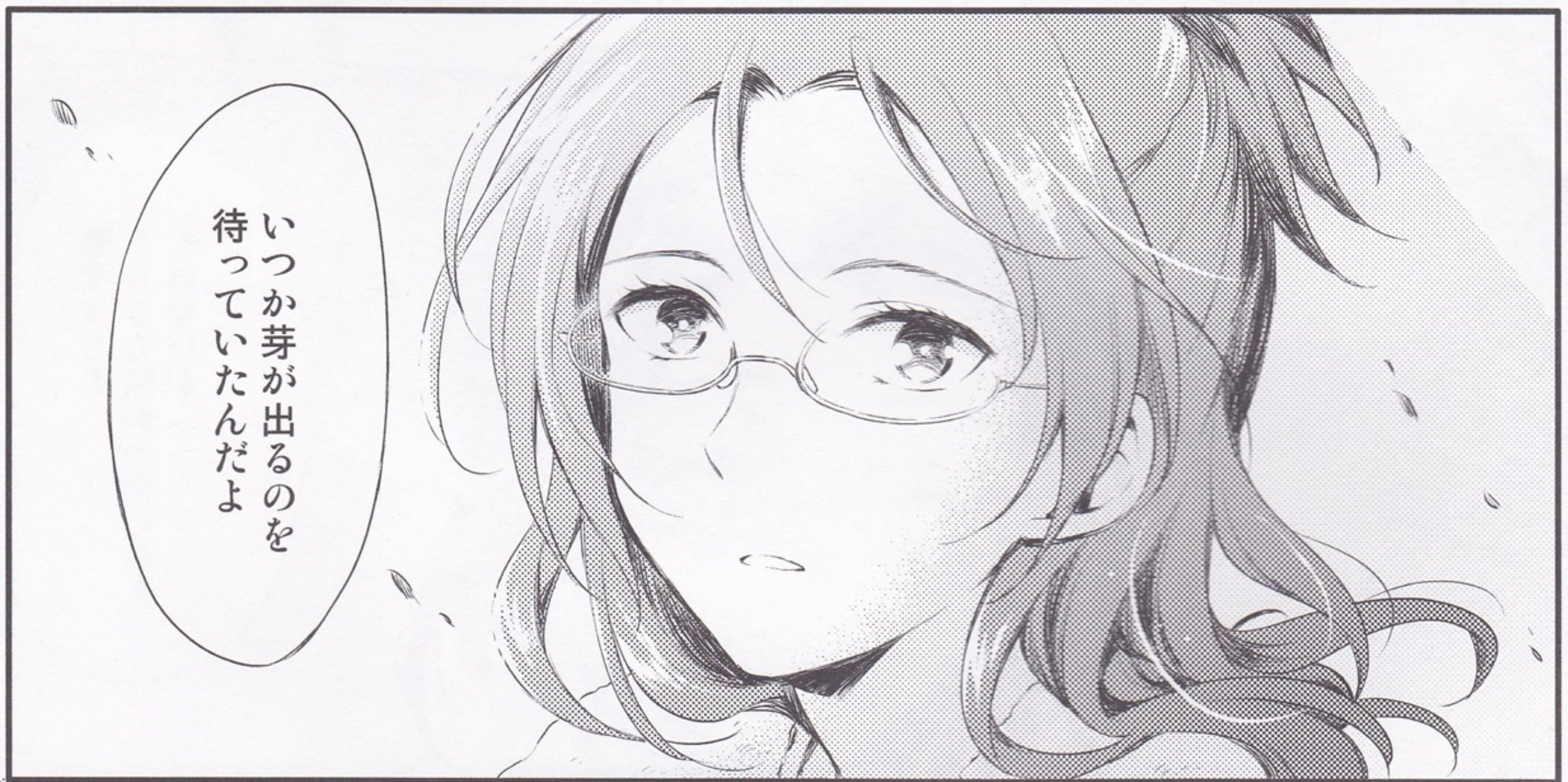
あの子は賢いから  
知っても口を噤んだ

心の中に芽生えた  
好奇心を胸に  
燃やし続けながら

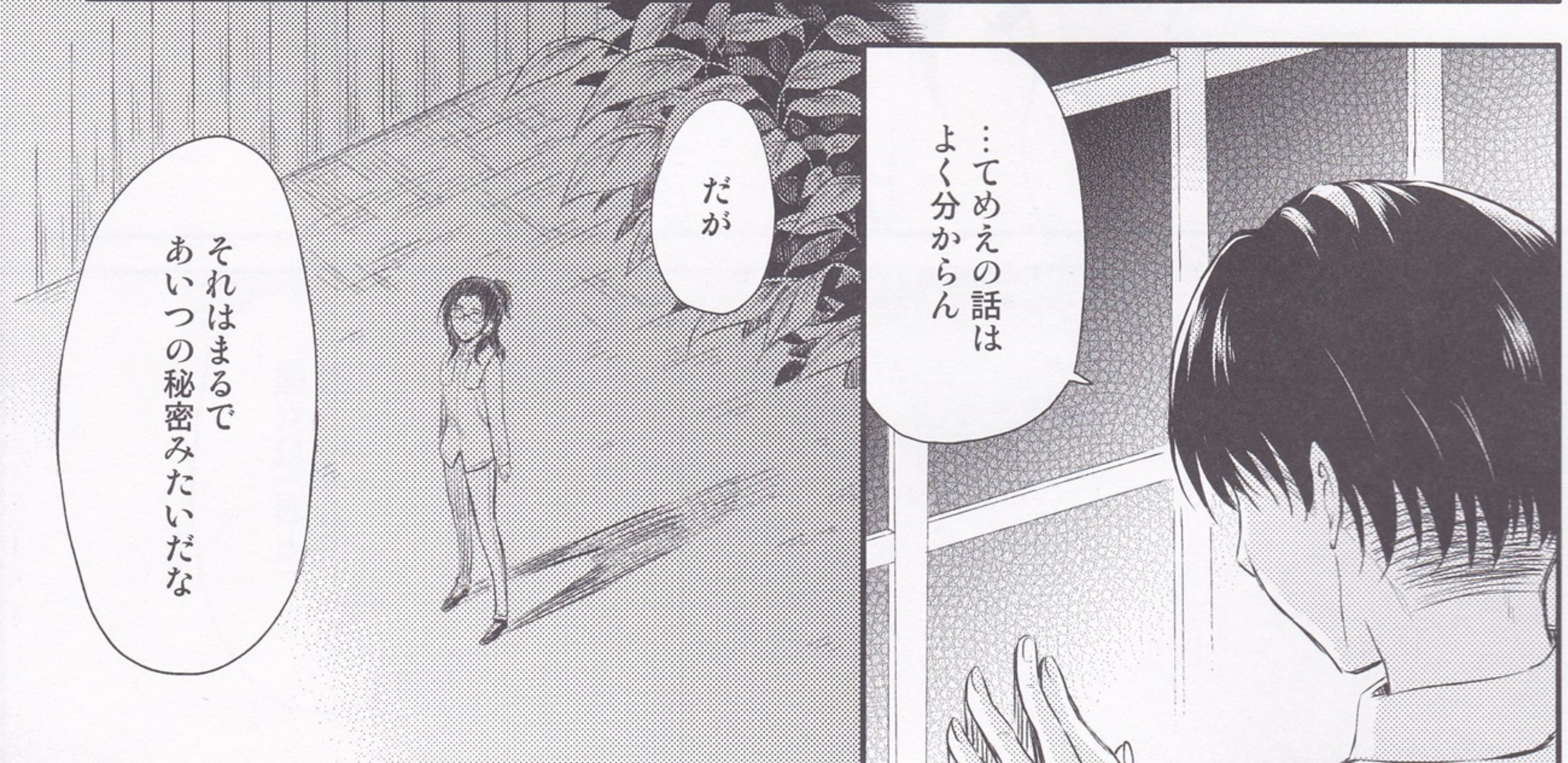


彼女のように  
好奇心を持って  
接する人が居たとして

そういう人間に  
対する  
風当たりは強い



いつか芽が出るのを  
待っていたんだよ



だが

…てめえの話は  
よく分らん

それはまるで  
あいつの秘密みたいだな

秘密だったのさ

感情が溢れて  
しまったんだろうね

あの子は君には  
隠せなかったみたいだ

隠す気など  
さらさら無かったのかも  
しれないが

彼女は「君と」  
外に行きたいのさ



あれから気になって  
また文献を  
漁ってみたんだ



おっリヴァイ  
いいところに



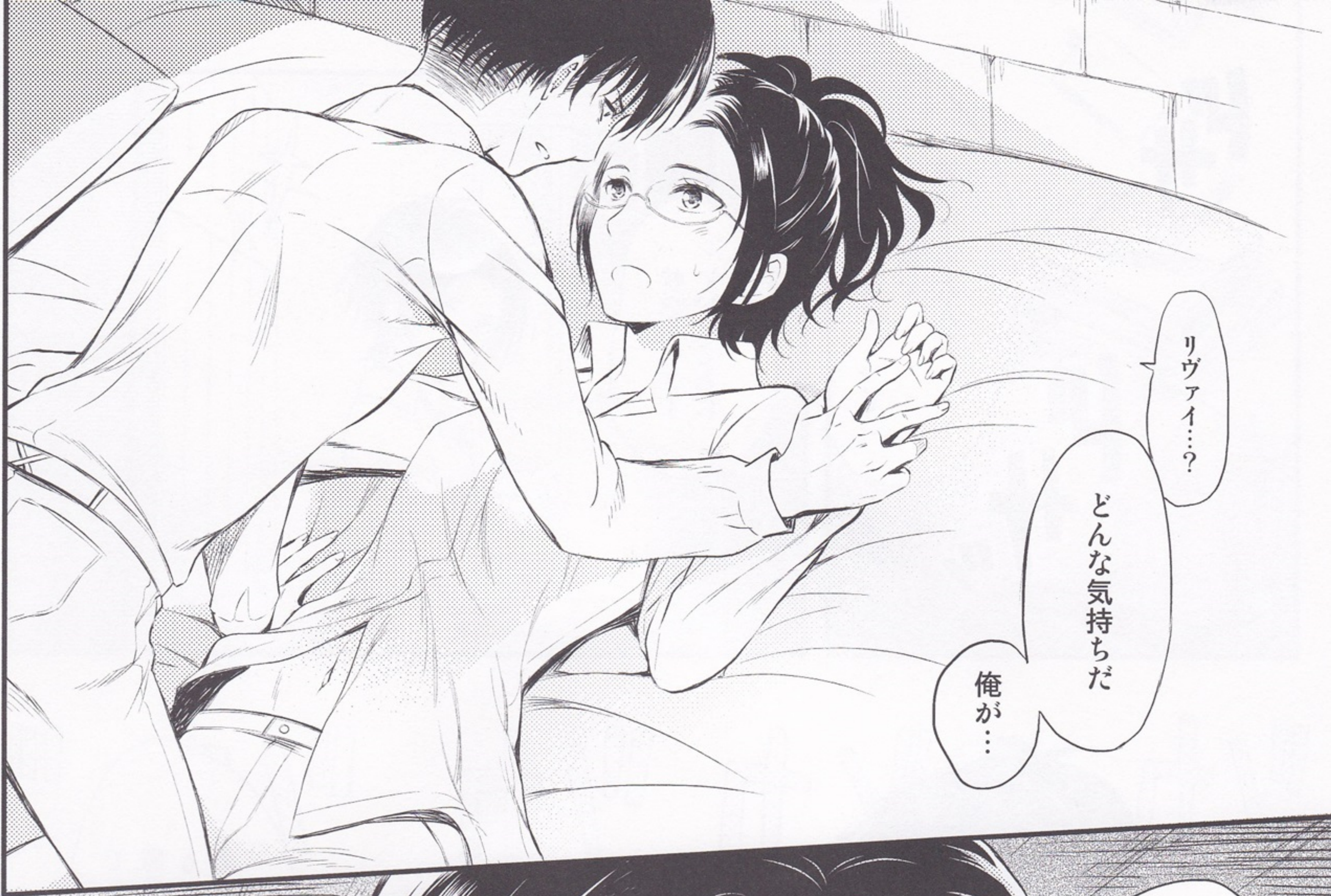
でも  
憲兵団の書庫には  
もつといい本が  
あるかもって思うとさ

結構  
歯がゆいよね!



おっ?

わめっ!?



リヴァイ…？

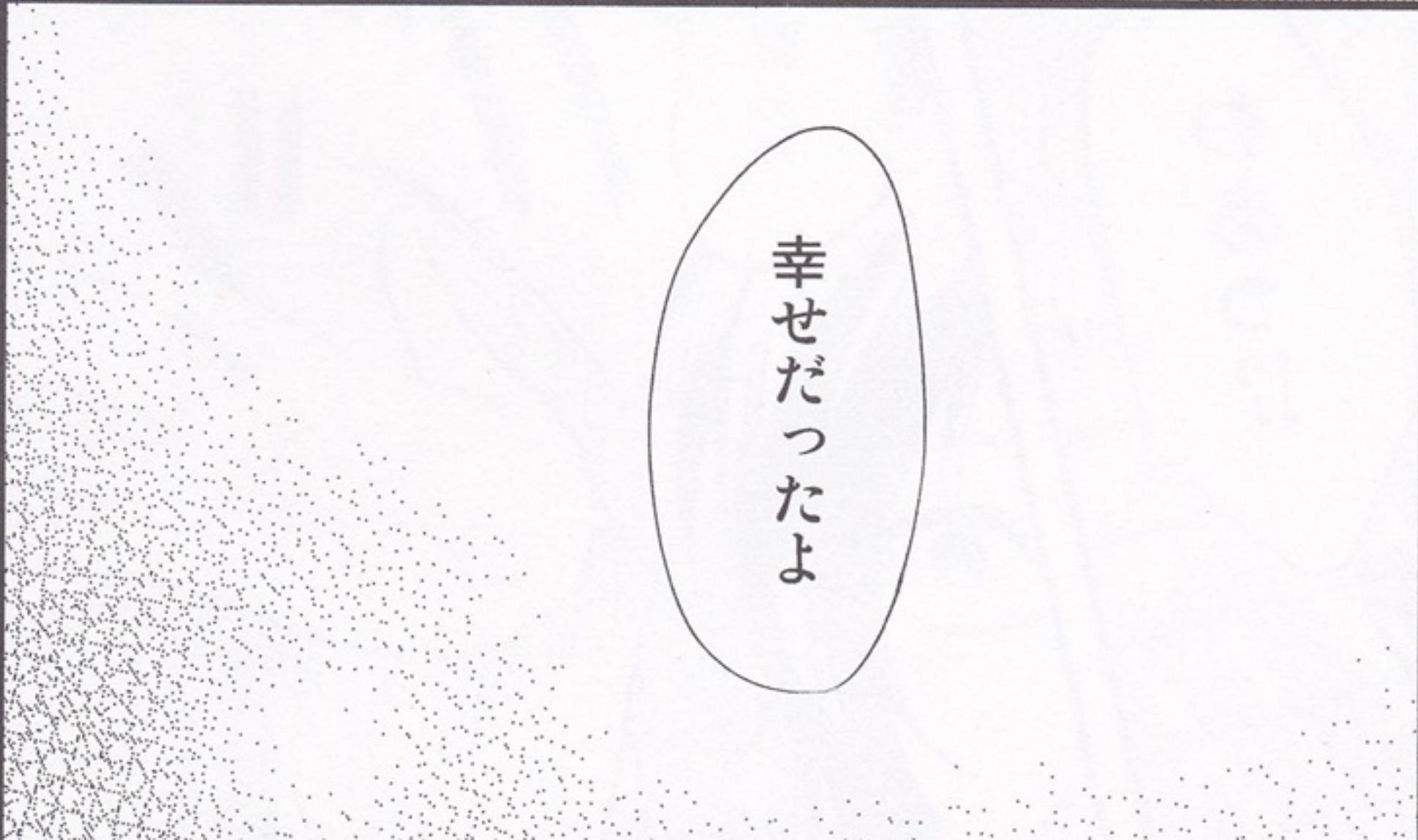
どんな気持ちだ

俺が…

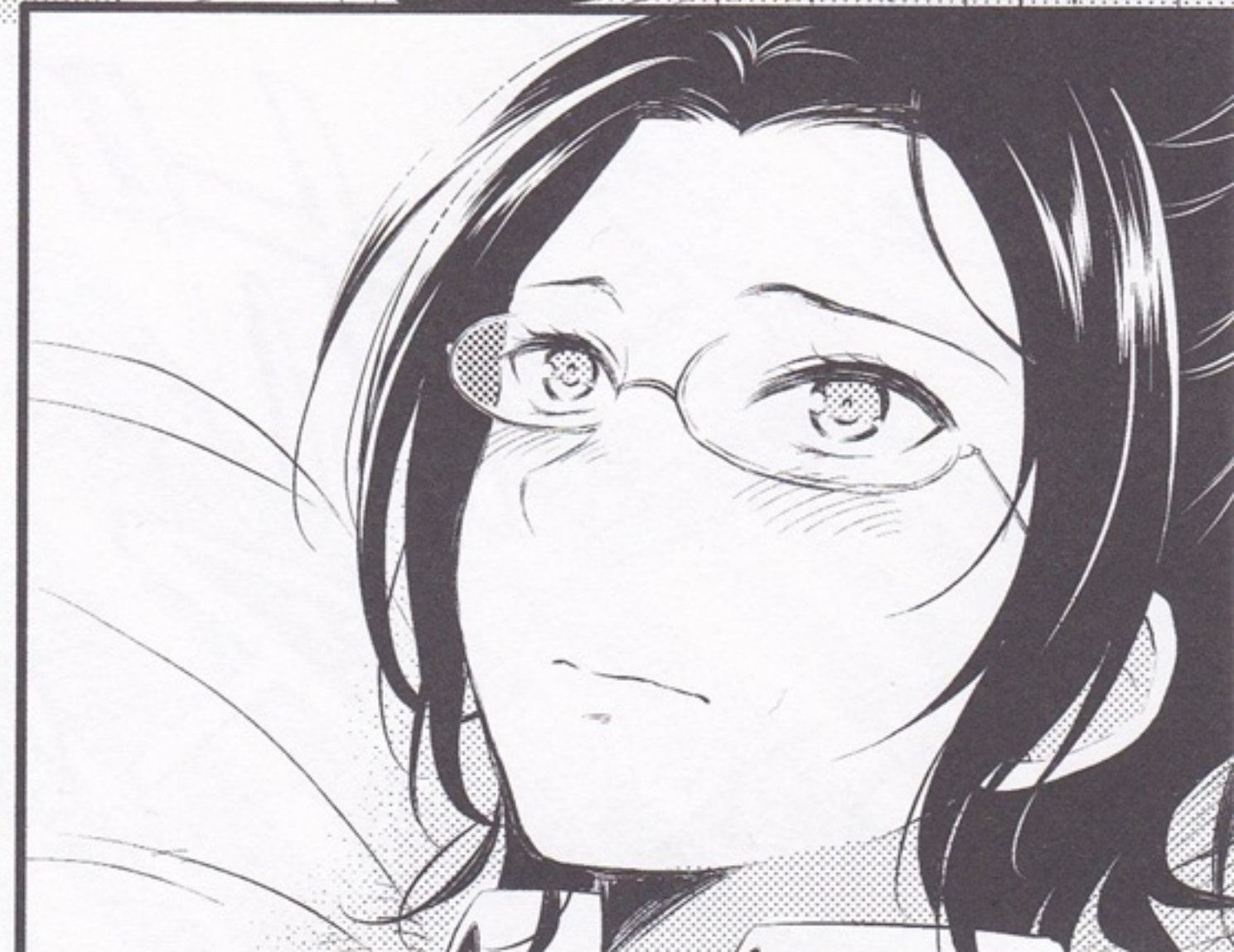


何も知らねえ  
マヌケな面して  
てめえの分かりにくい話を  
聞いてたとき

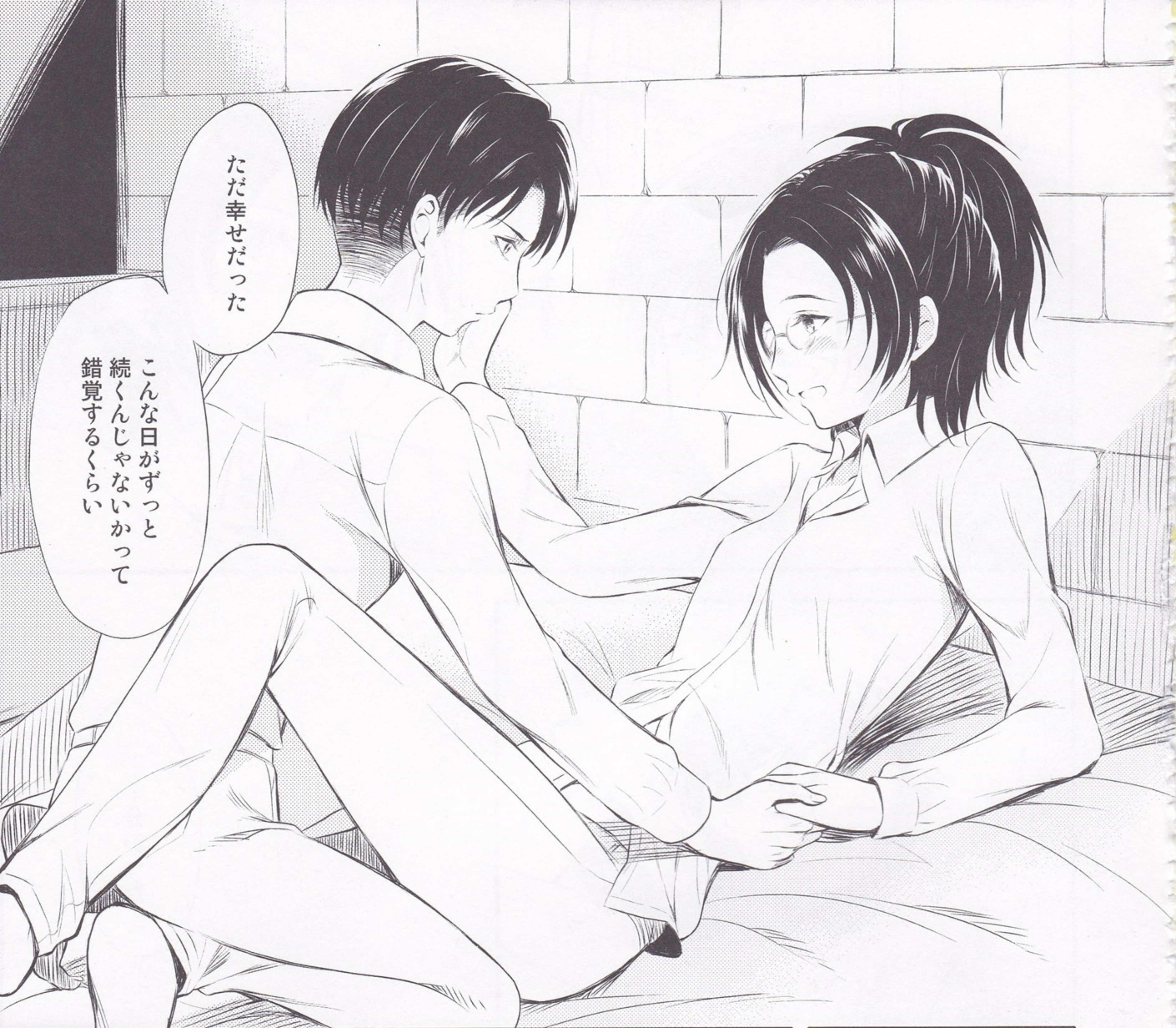
てめえは  
どんなつもりだった



幸せだったよ







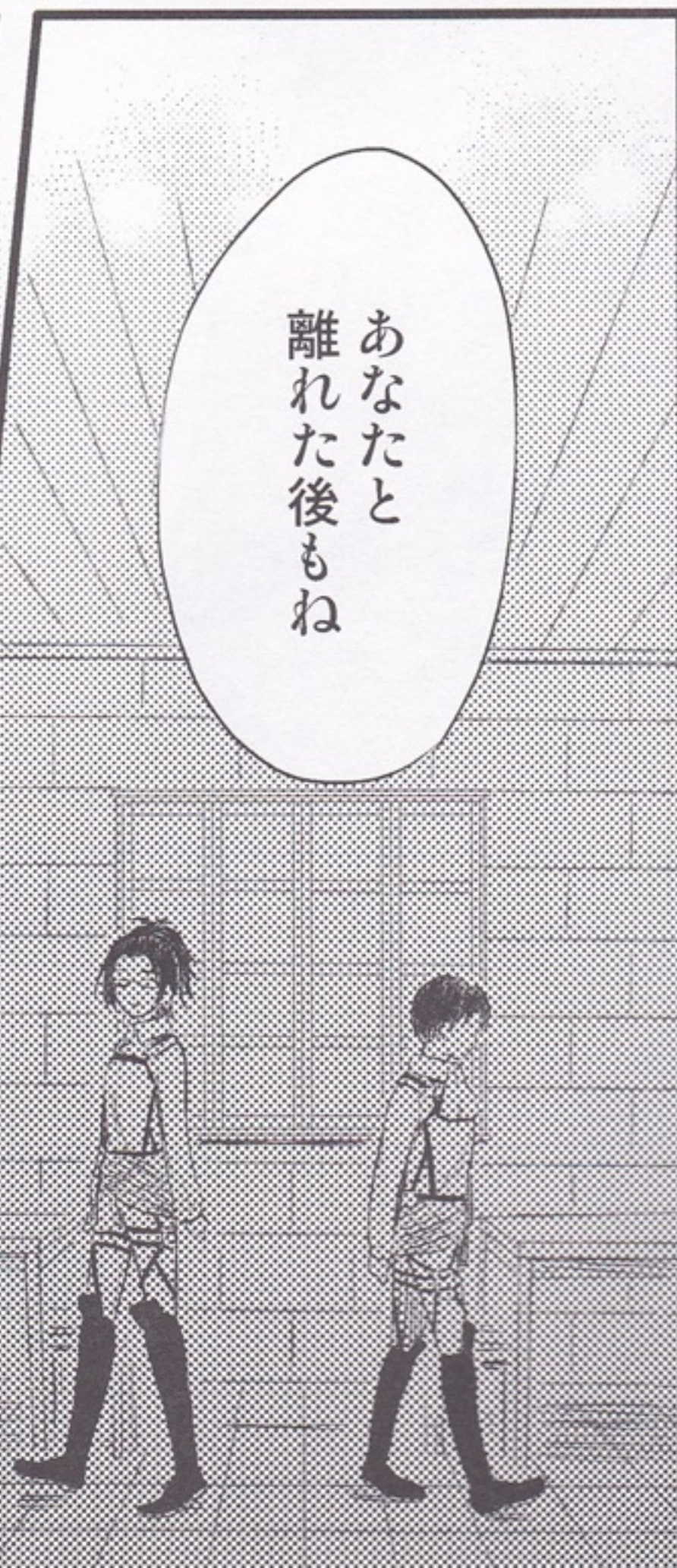
ただ幸せだった

こんな日がずっと  
続くんじゃないかって  
錯覚するくらい

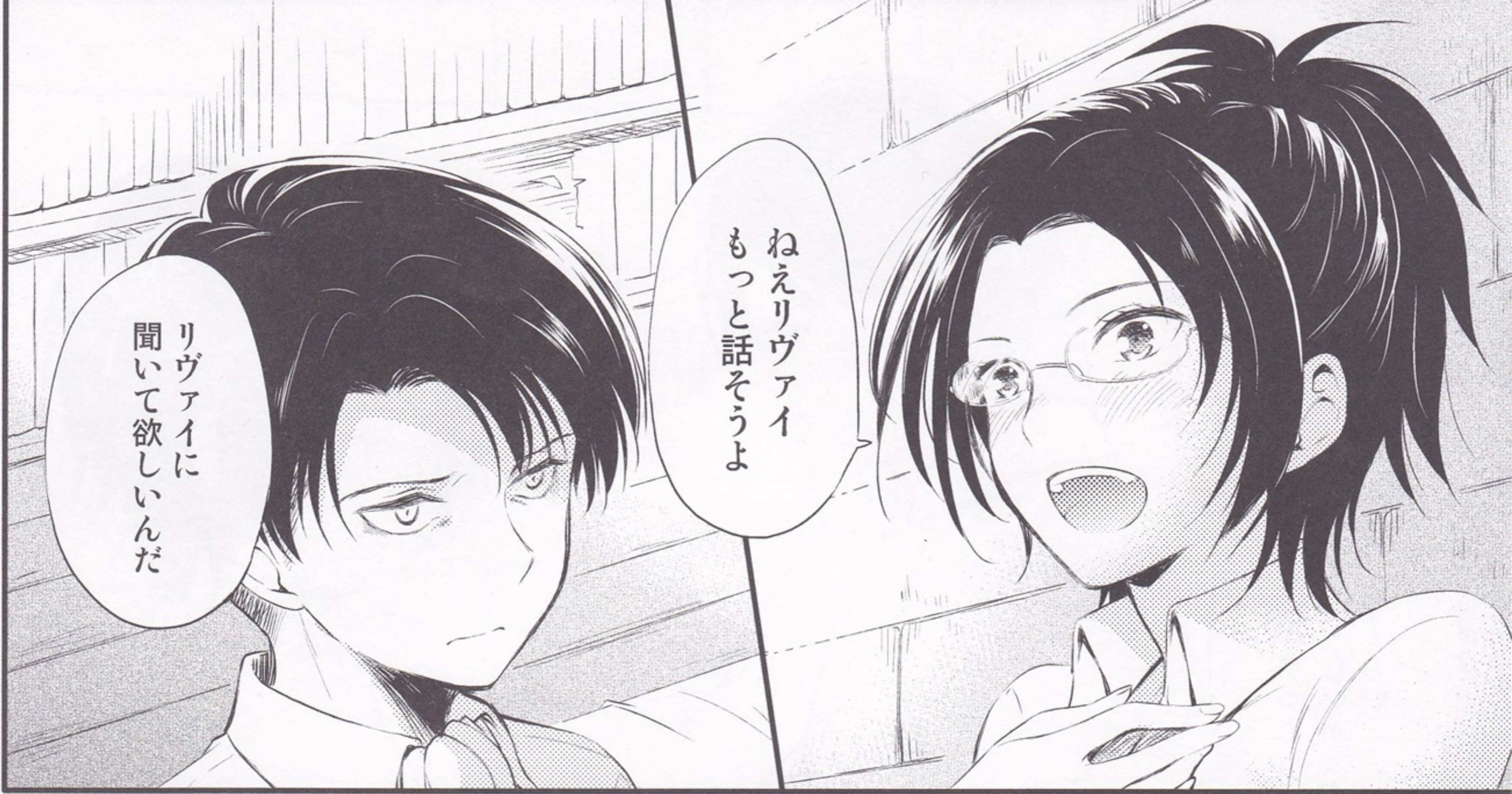


一緒に話した事や  
あなたの反応を  
思い出しては…

無い心臓を滾らせた



あなたと  
離れた後もね



リヴァイに  
聞いて欲しいんだ

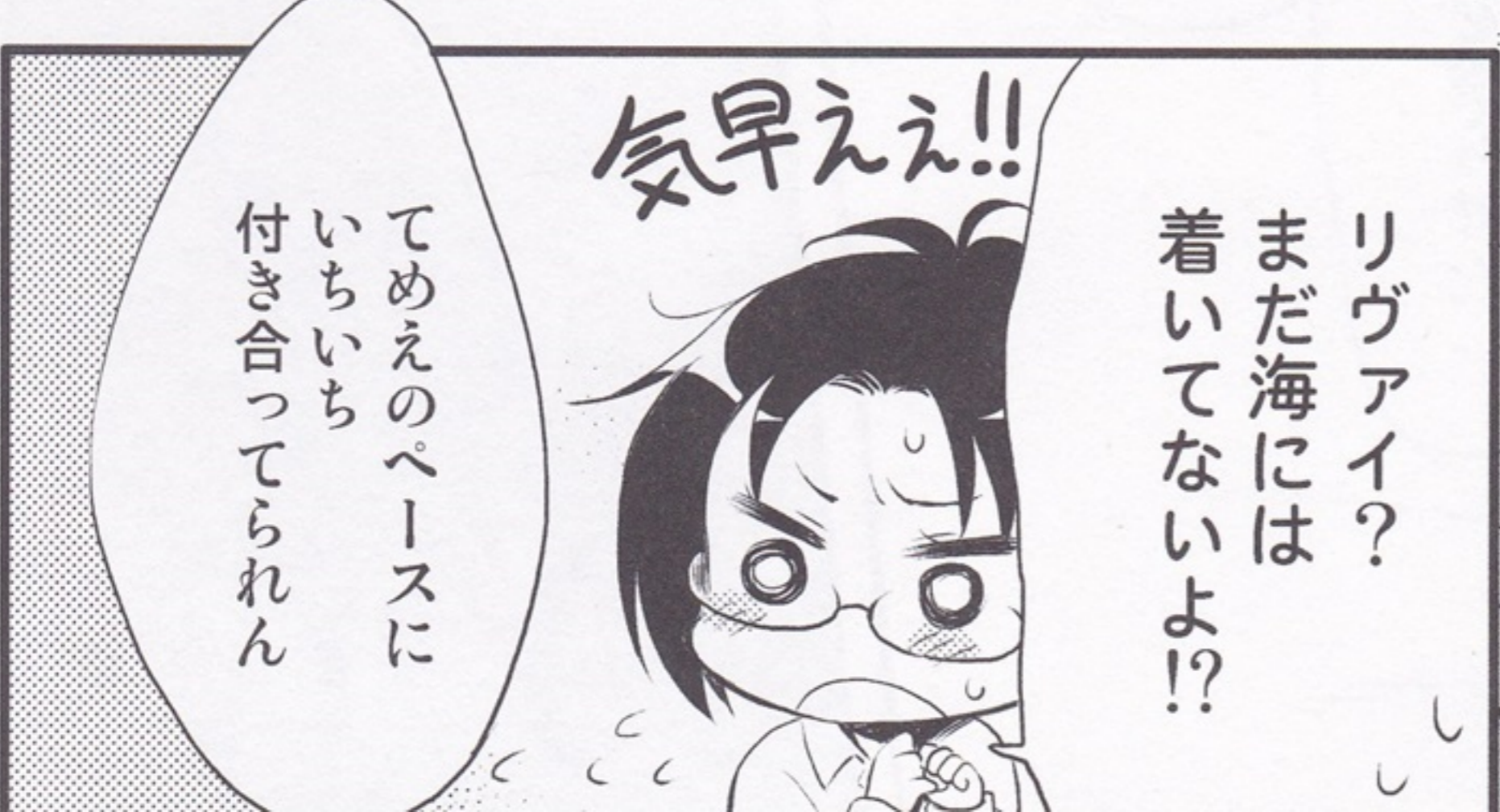
ねえリヴァイ  
もっと話そうよ



!?



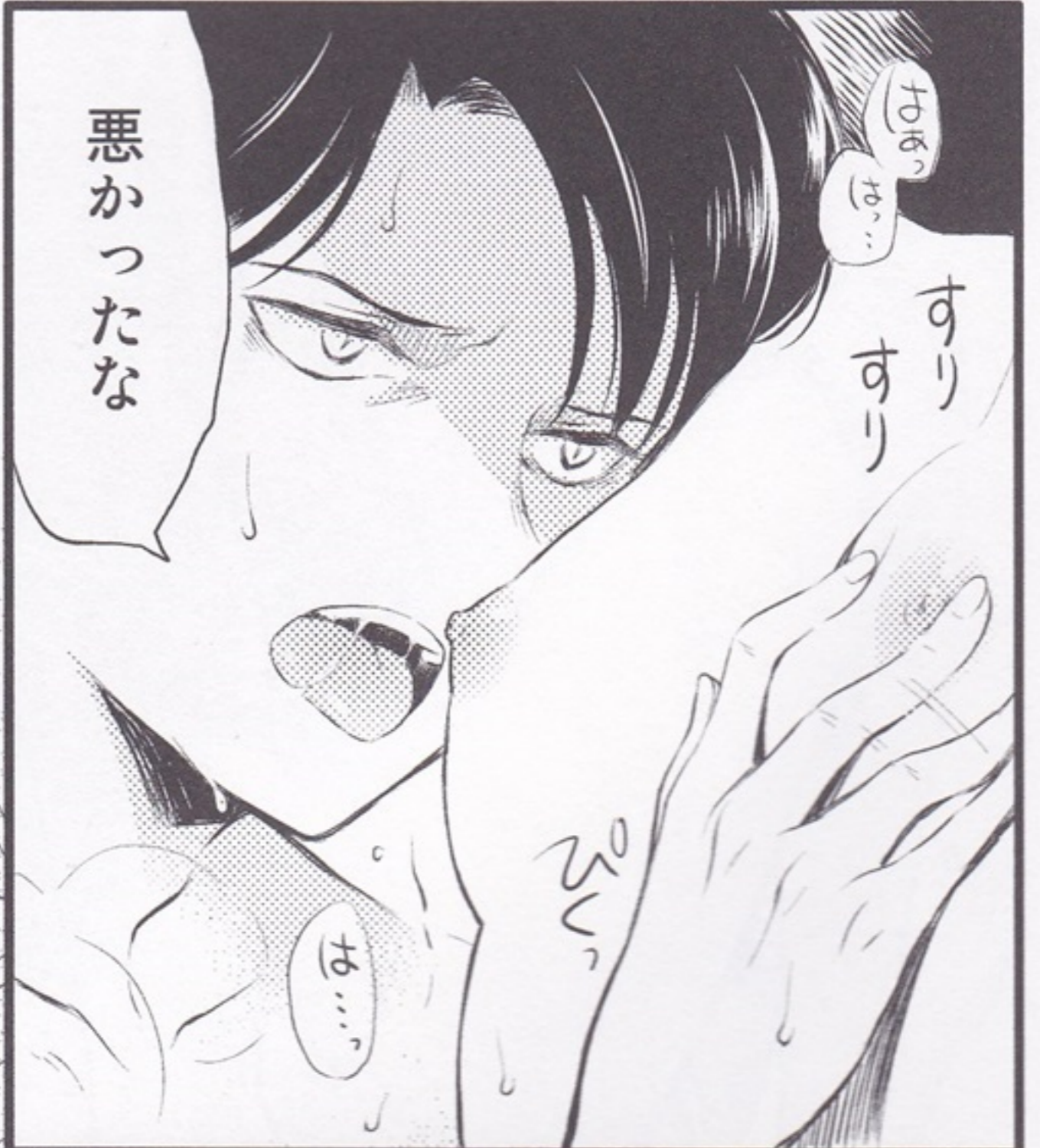
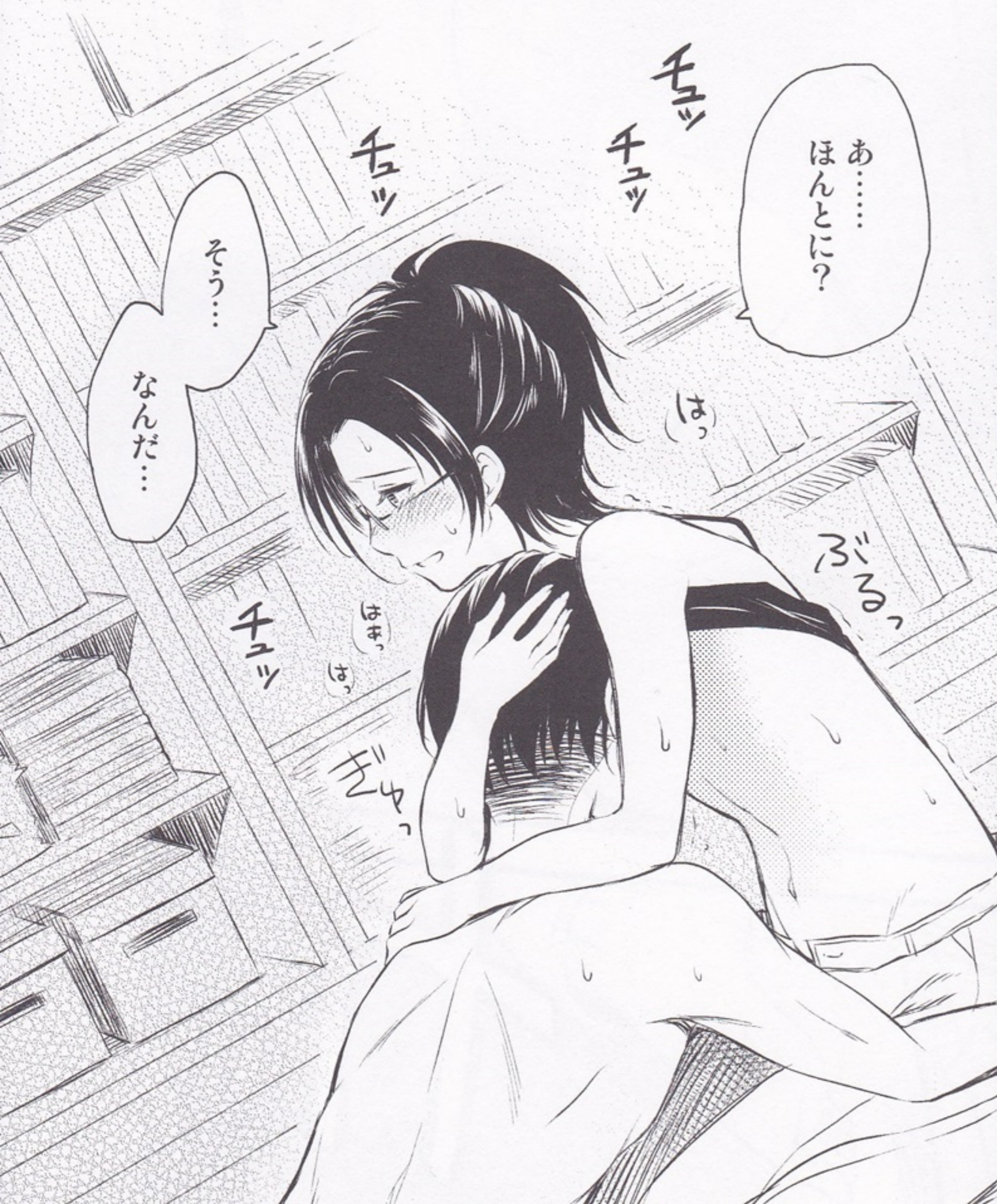
……分かった



てめえのペースに  
いちいち  
付き合ってもらえん

気早ええ!!

リヴァイ?  
まだ海には  
着いてないよ!?





汚いよ…?

てめえが普段から  
ママに風呂に  
入らねえからだろ

今日は入っ…

あゝ

あゝ

あゝ

ちよっ

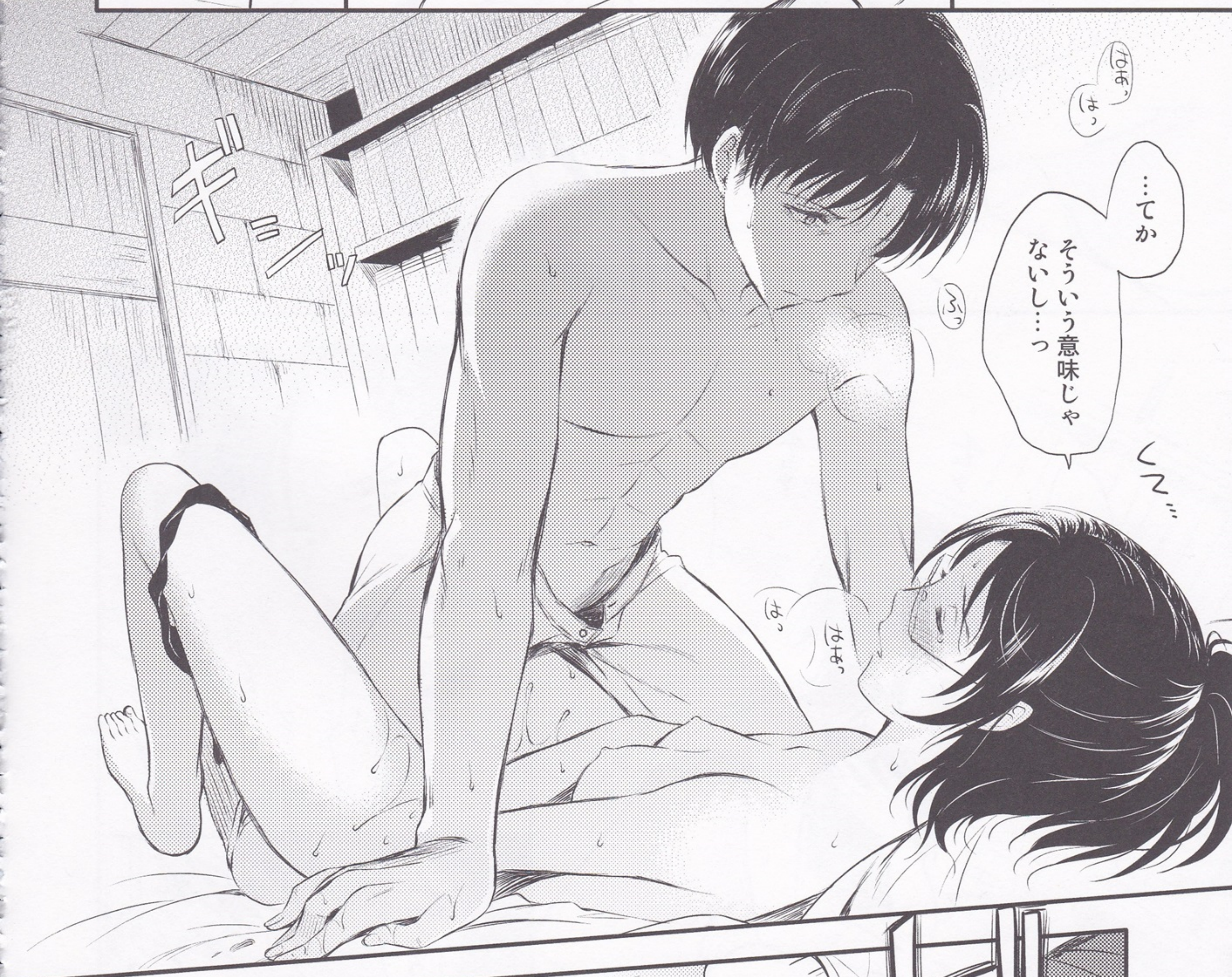
んなとこ  
さわ…っ

はっ

ぎゃ

しん

あゝ



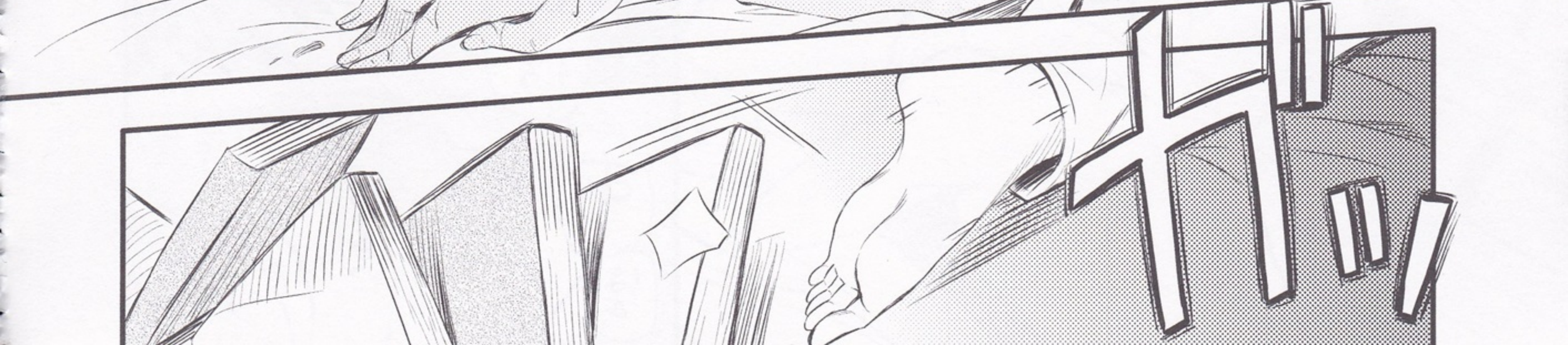
…てか

そういう意味じゃ  
ないし…っ

ふっ

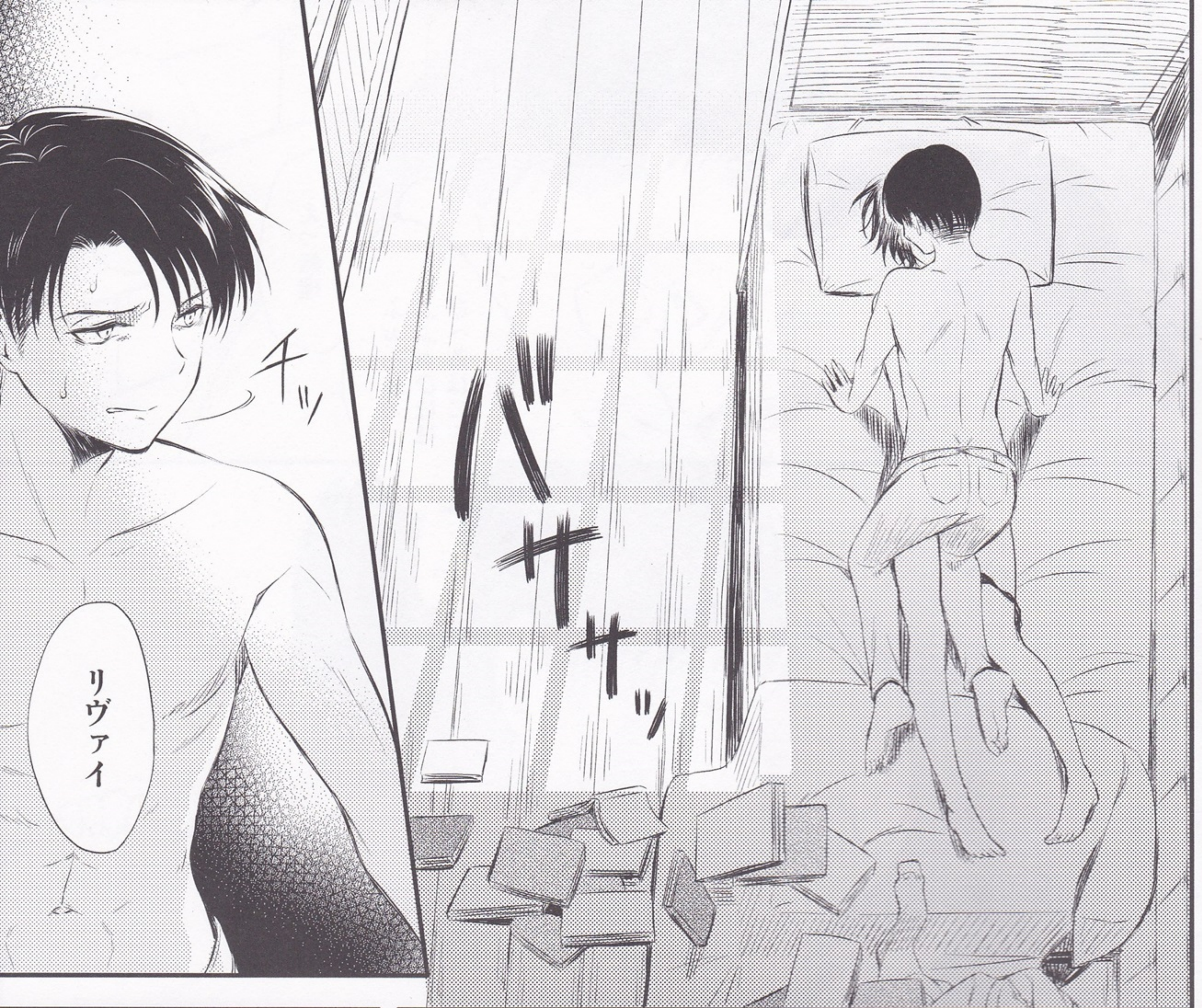
あゝ

しん



あゝ

あゝ



リヴァイ

チッ

ハッ

ハッ

ハッ



何だ

私どうしたら  
いいのかなって

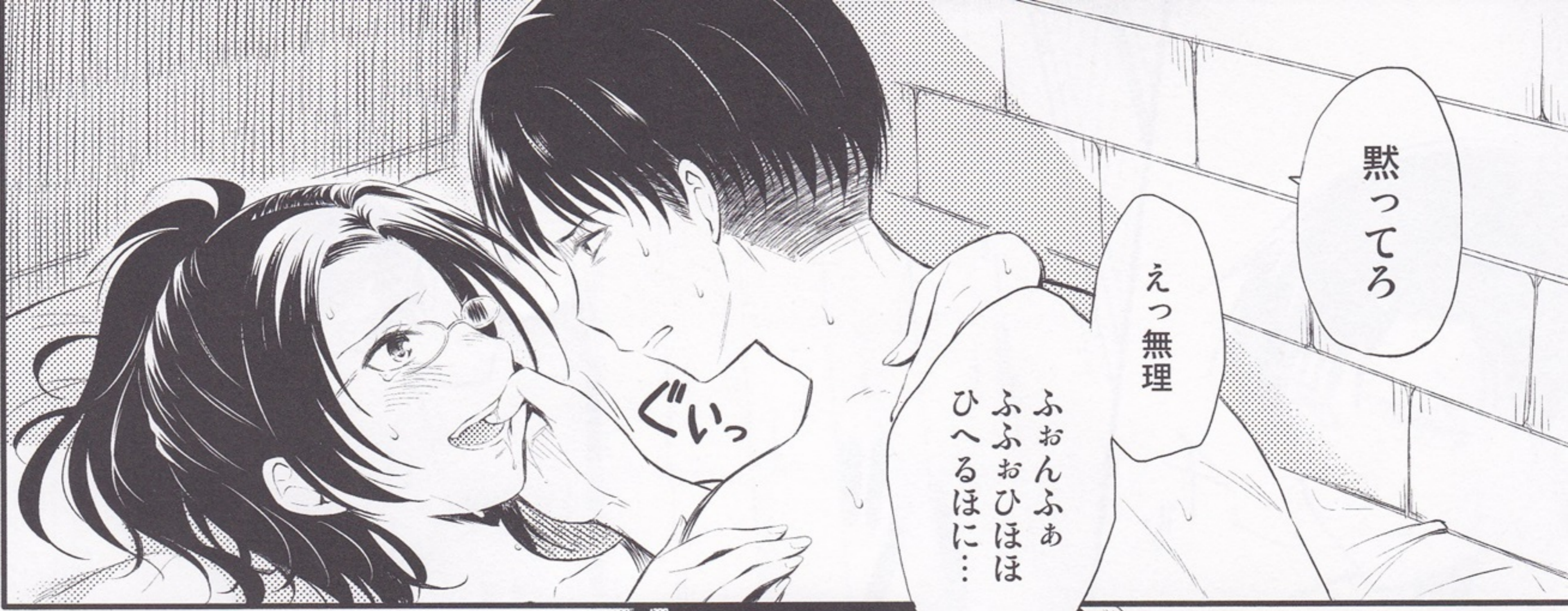


リヴァイ



リヴァイ

は



黙ってる

えっ無理

ふおんふあ  
ふおおひほほ  
ひへるほに...

ぐいっ

...



びっ

ちゅ

びっ



ちゅ

びっ



ちゅ

ちゅ

ん

ん

ん



ちゅ

ちゅ

ん



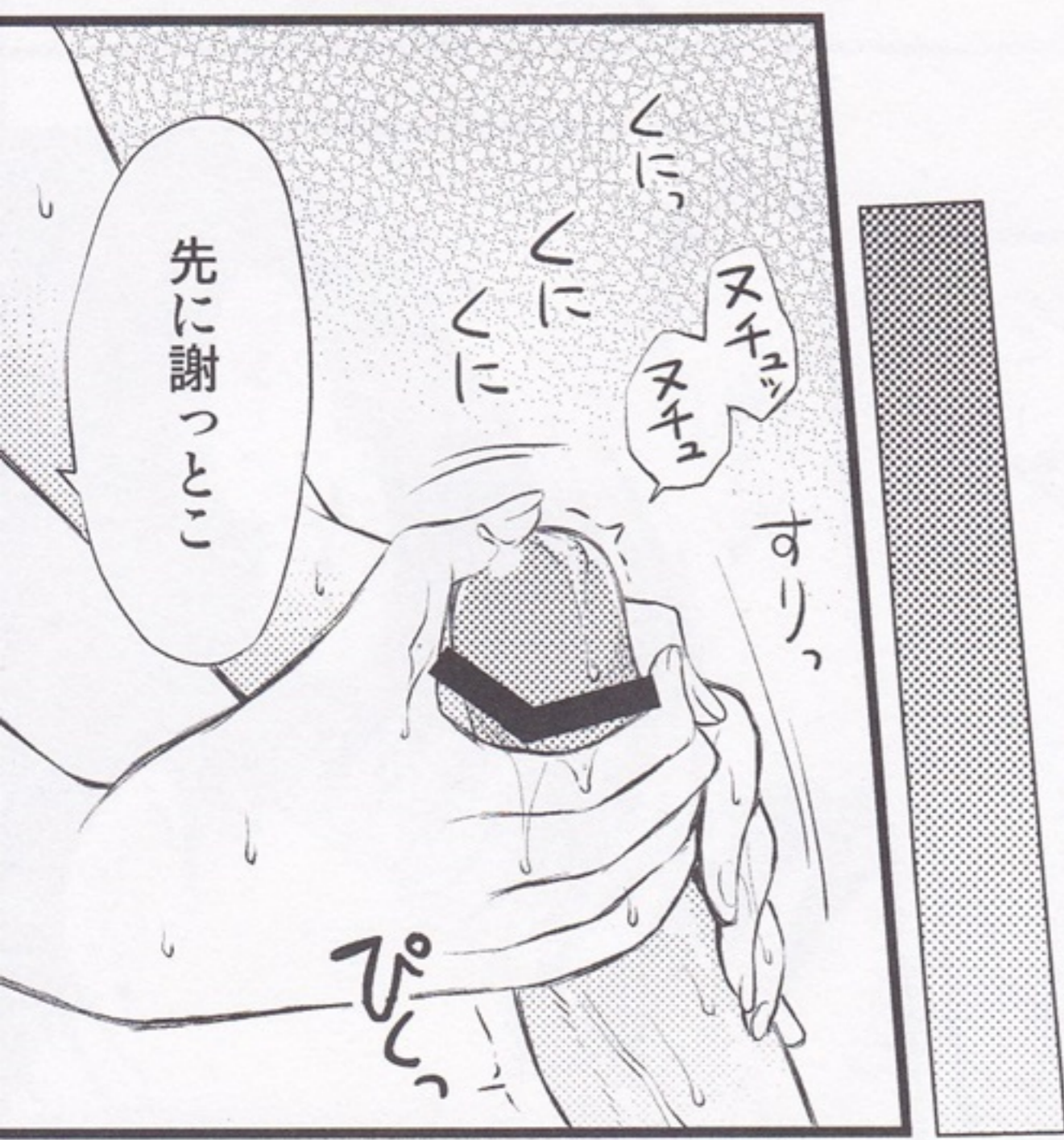
黙れるじゃねえか

…ハンジ

ぐいっ

は、

おめ、



え…?

…あ

かあ

先に謝っとこ

ヌキゅ

ヌキゅ

くに

びん

すり、



入らなかったら  
ごめんね

大丈夫だ  
どうにかする

どうにかって

あと  
気持ち良くなかったら  
ごめん

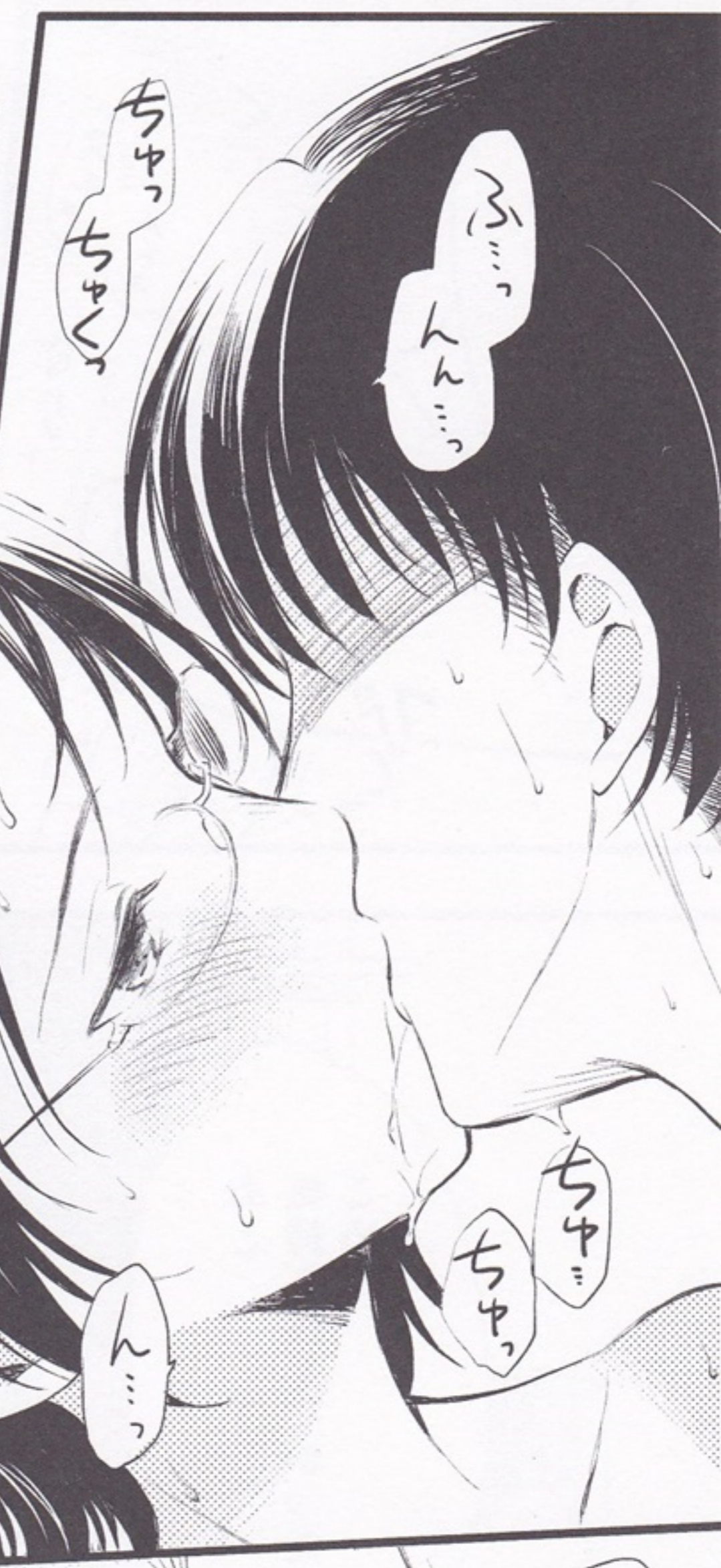
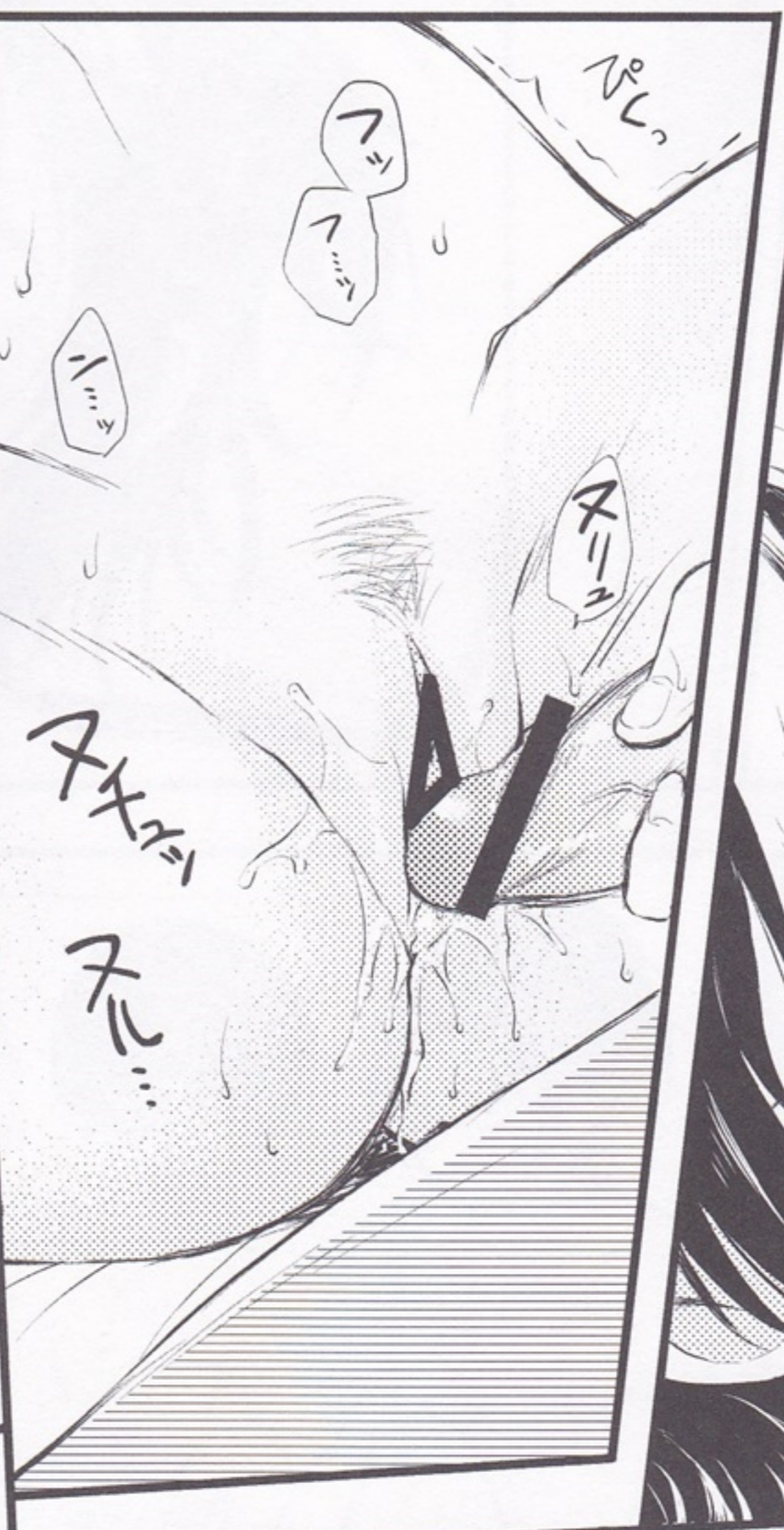
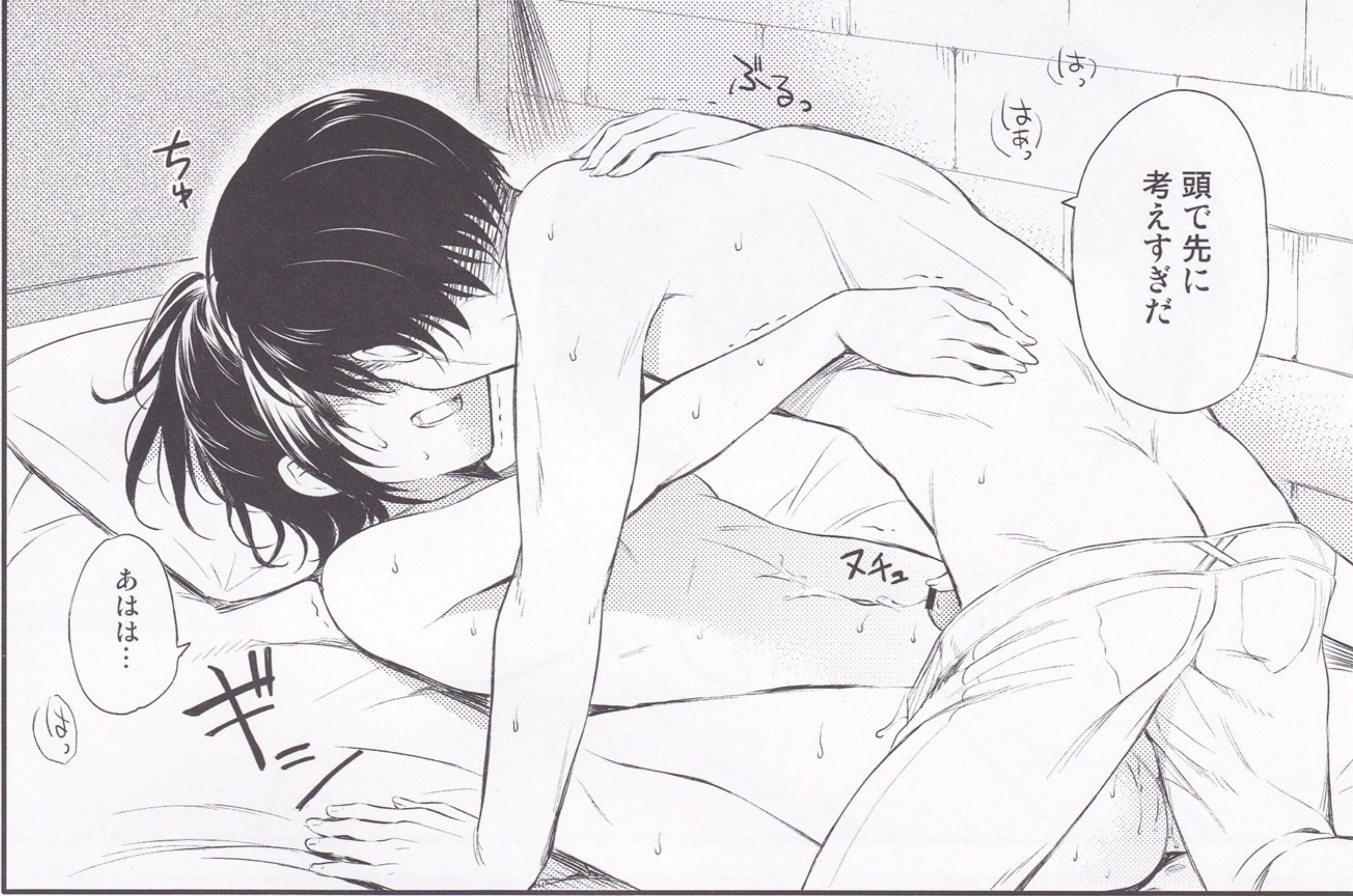
…てめえは

ぐいっ

ちち

ちち

びん







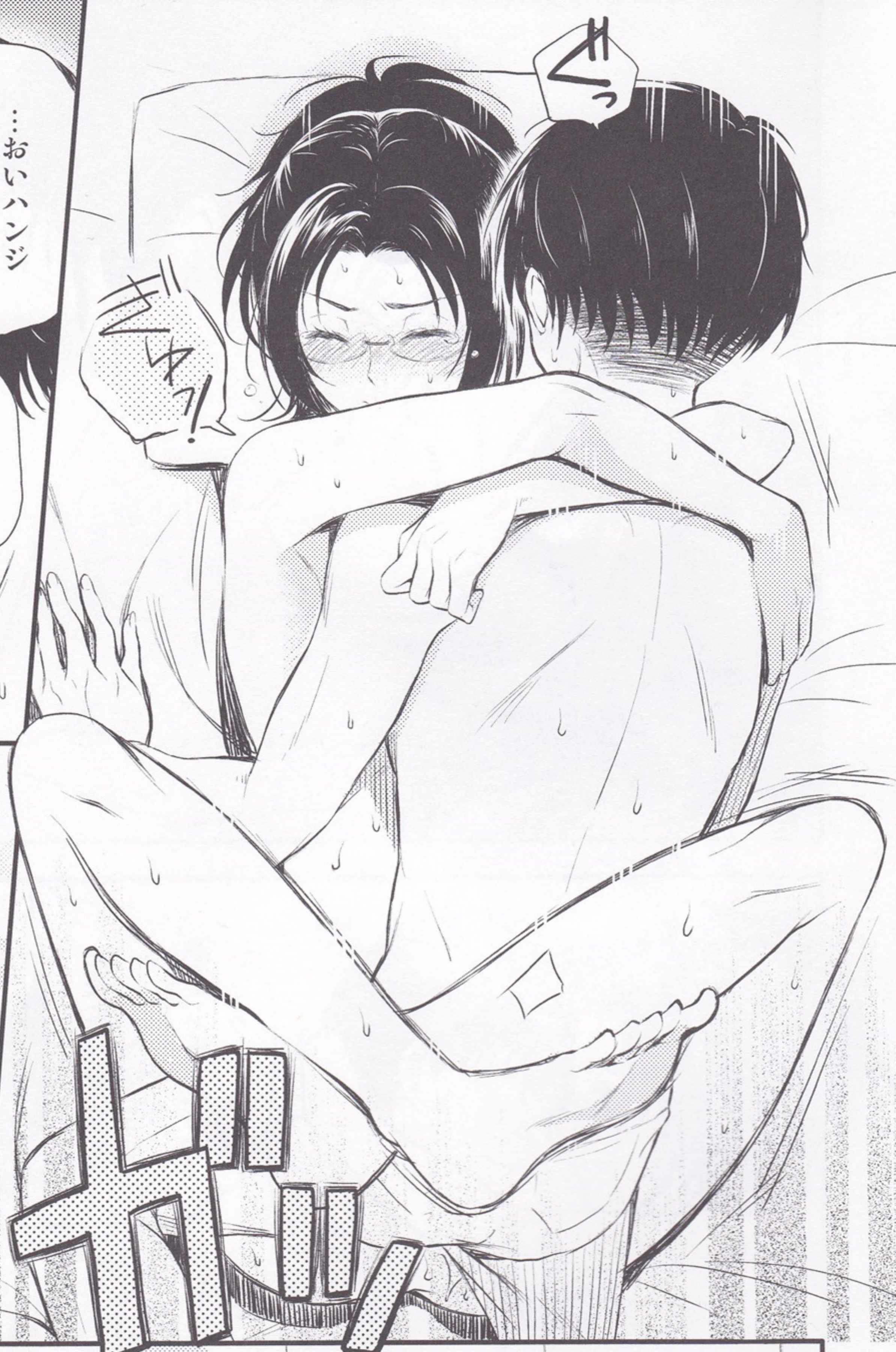
くさしい……

…おいハンジ  
大丈夫か

すげえ  
あつい…

ねえリヴァイ

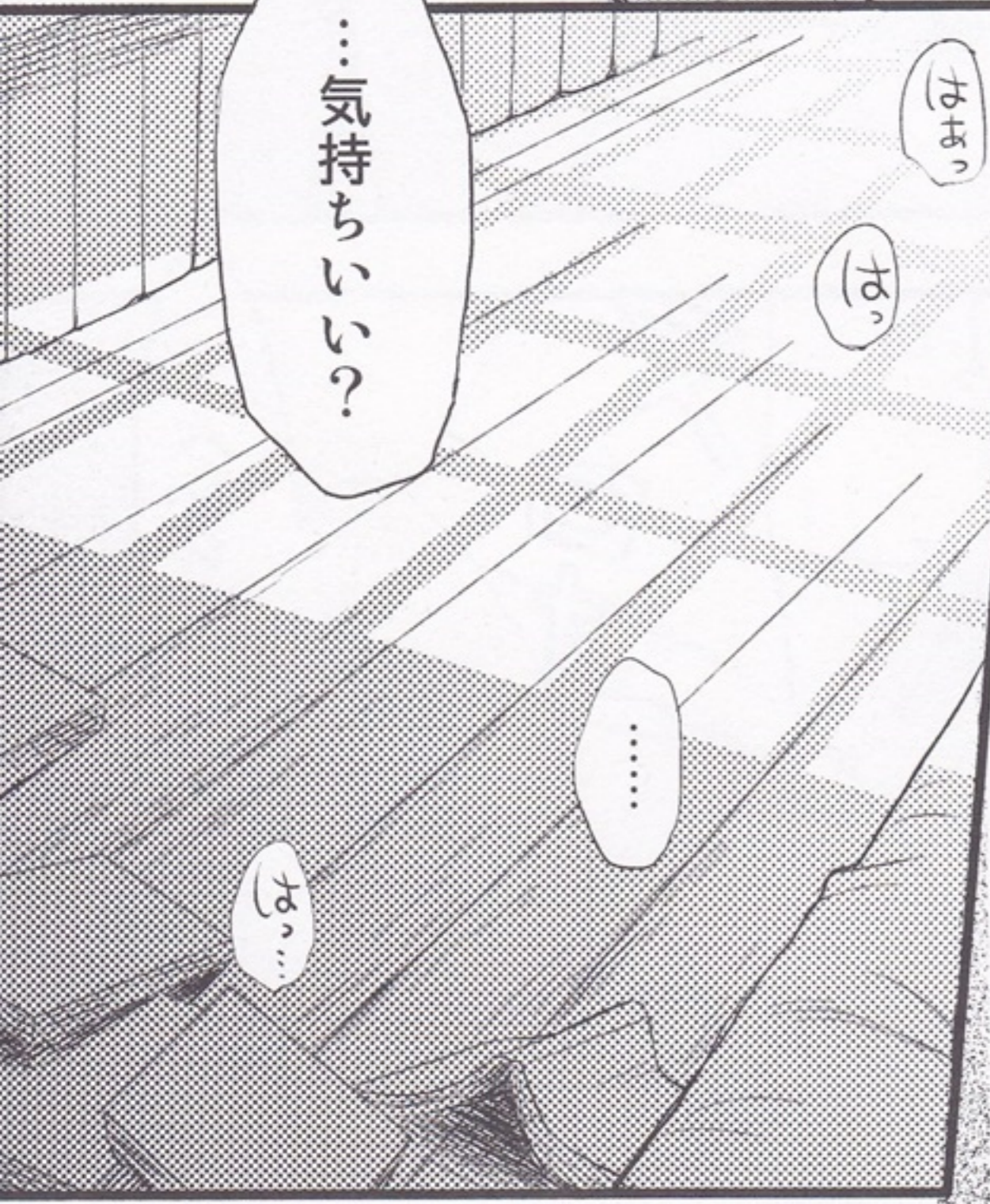
何だ？



ハッ  
クッ

ハッ  
クッ

ハッ  
クッ



…気持ちいい？

はぁ

はぁ

…

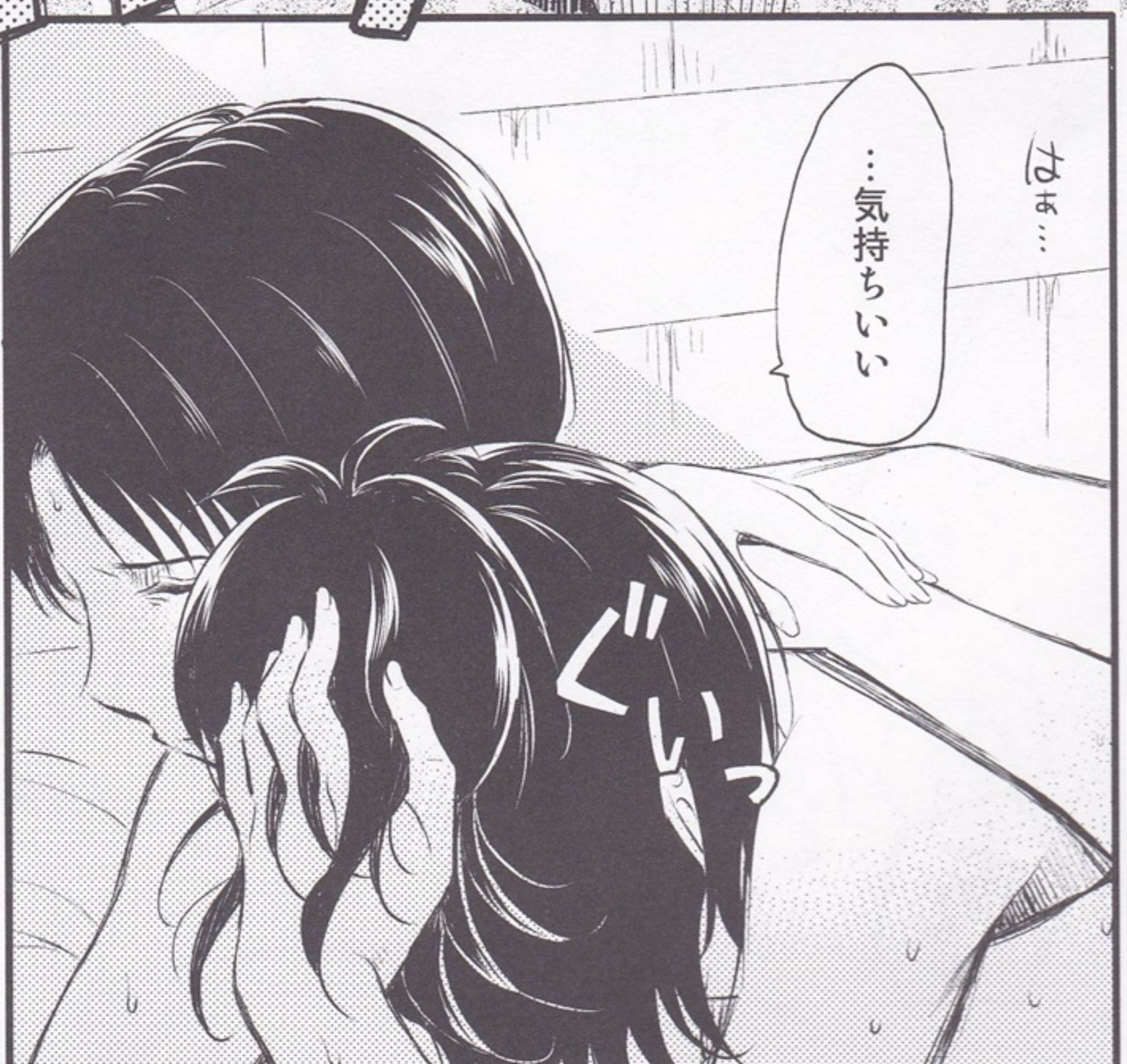
はぁ



はー  
良かった！

女に生まれて  
良かったよ

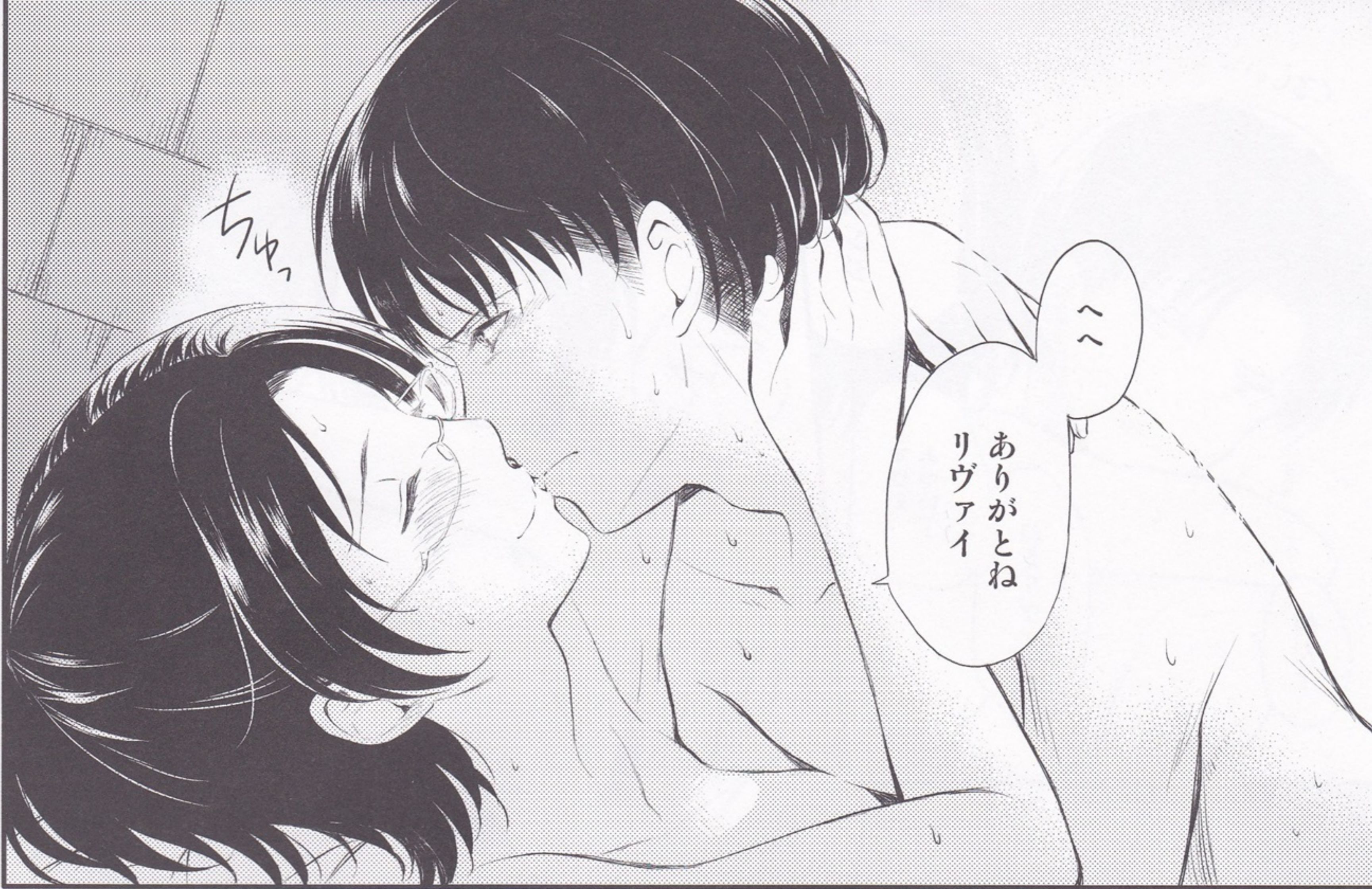
ホフッ



…気持ちいい

はぁ

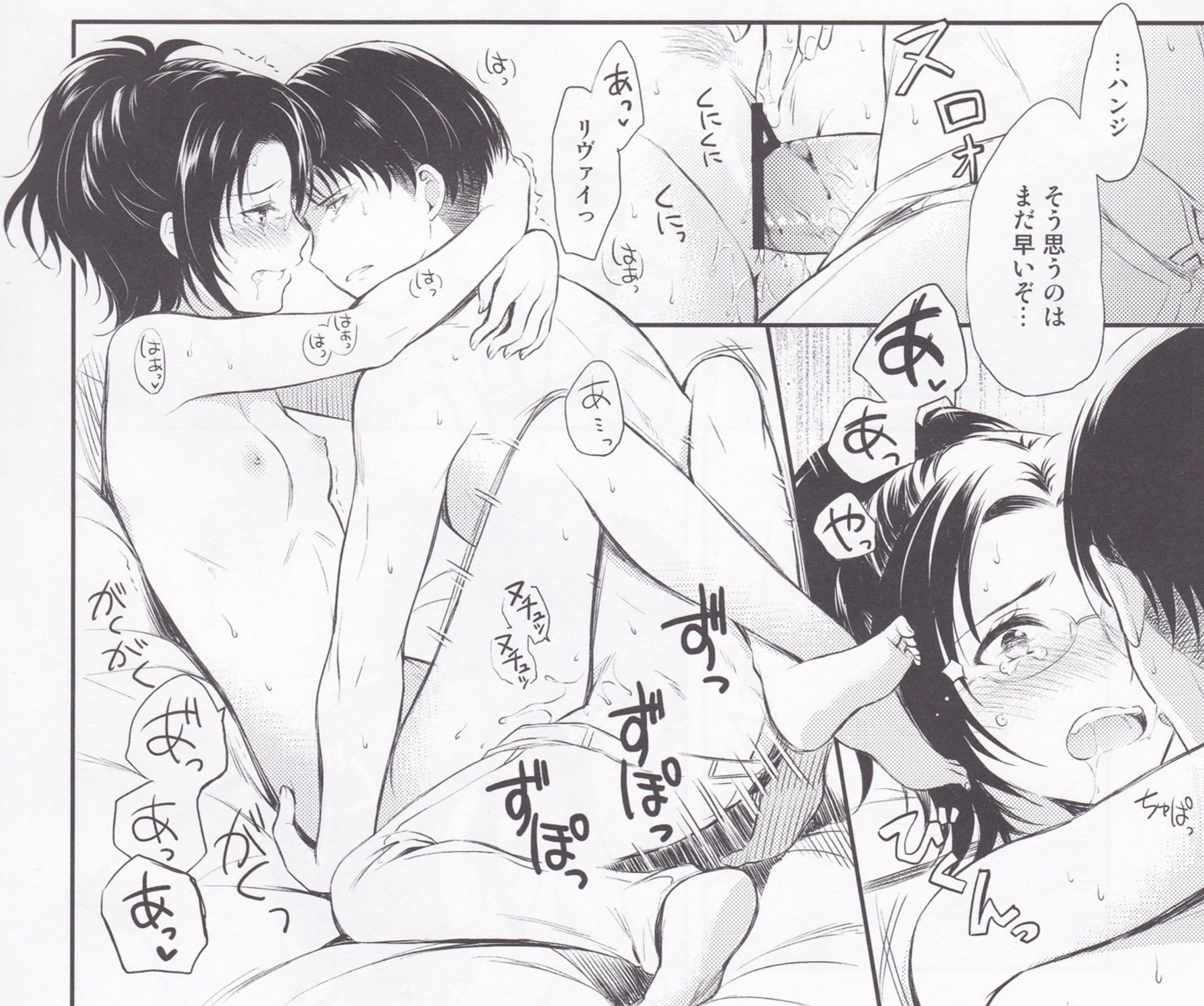
グッ  
グッ



ありがとうございます  
リヴァイ

〜

ちゅっ



…ハンジ

そう思うのは  
まだ早いぞ…

アロオ

ジュン

ジュン

あーっ  
リヴァイっ

(あ)

(あ)

あーっ

あーっ

あーっ

あーっ

あーっ

あーっ

あーっ

あーっ

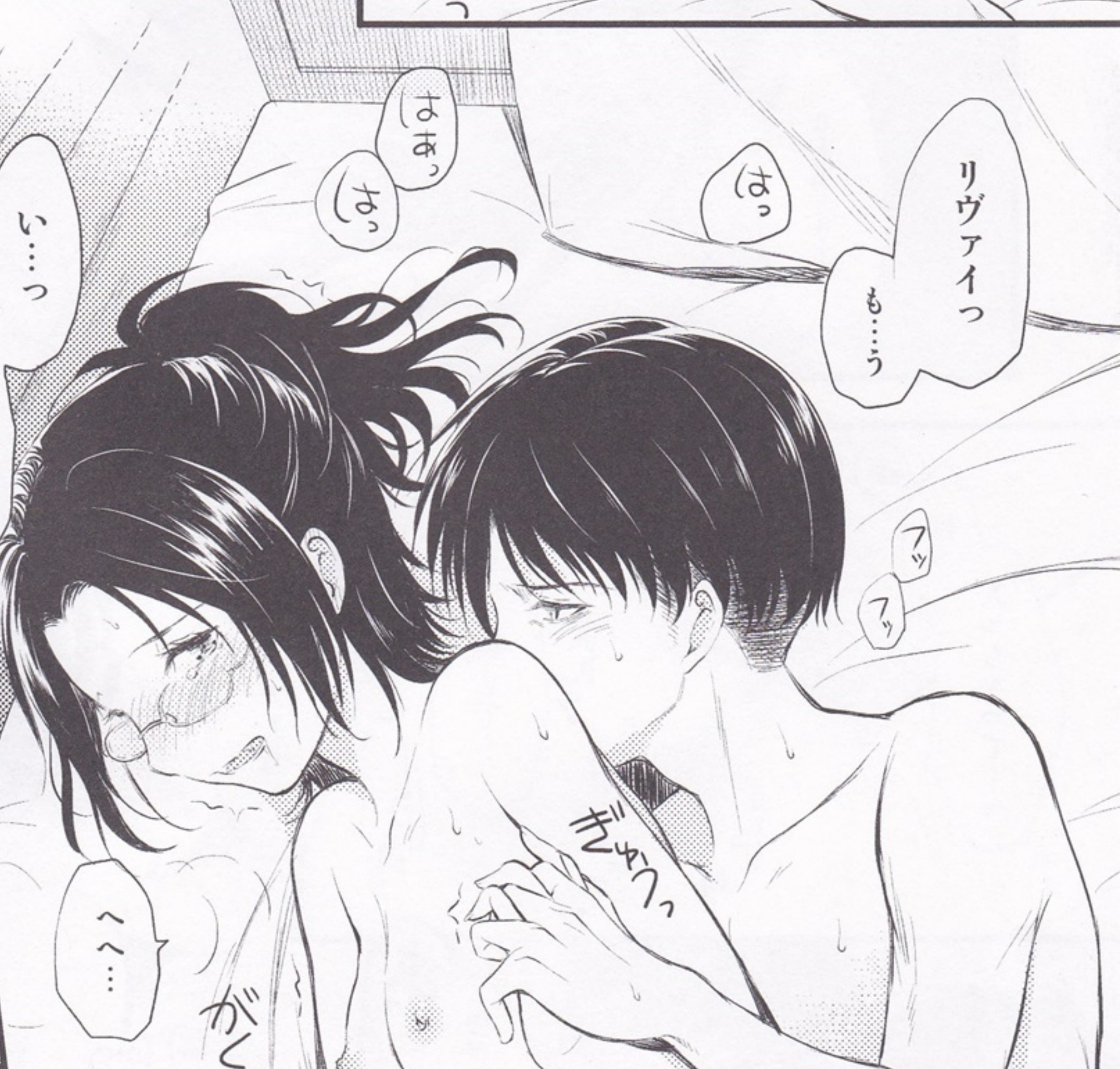
あーっ  
あーっ  
あーっ

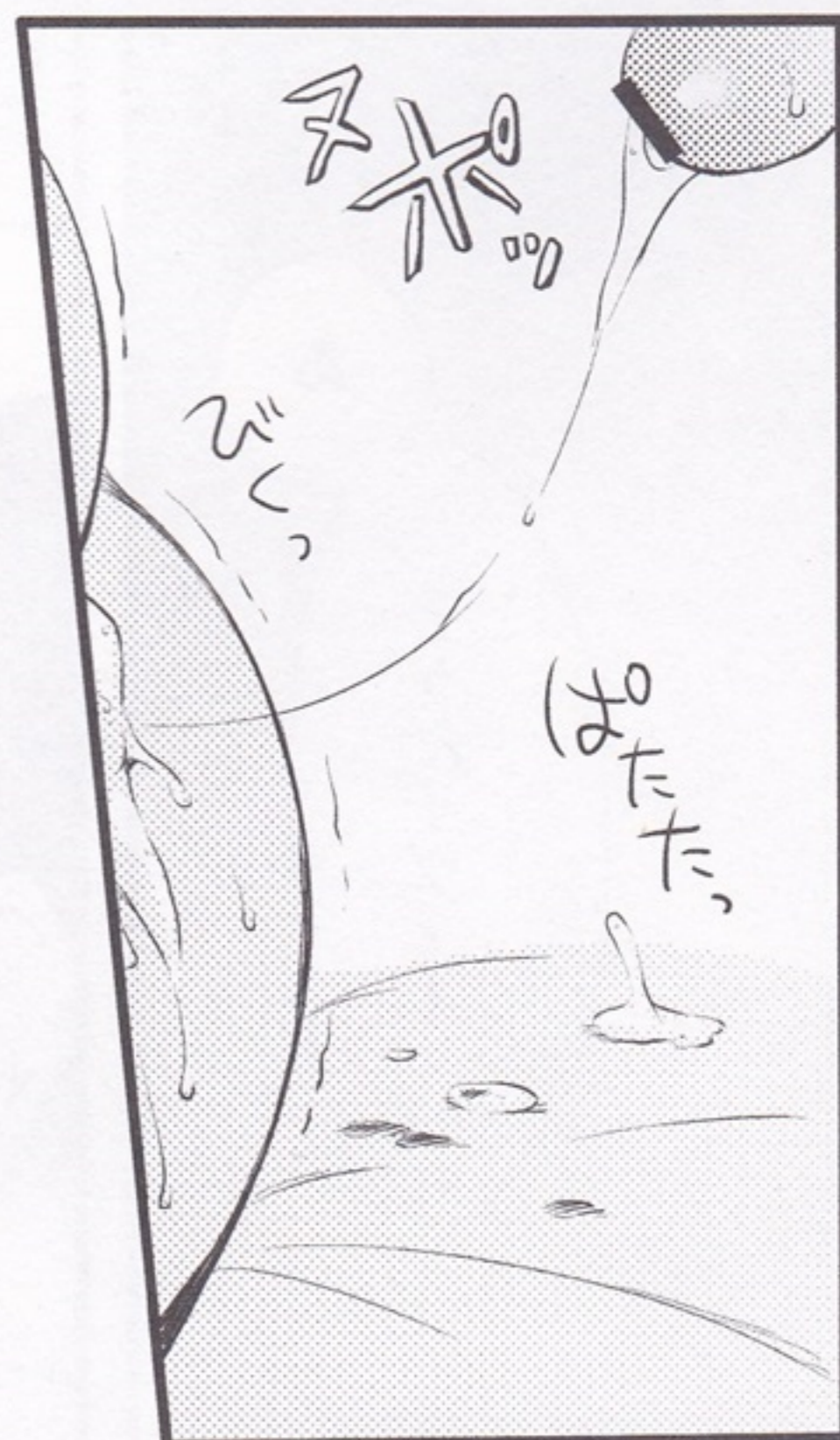
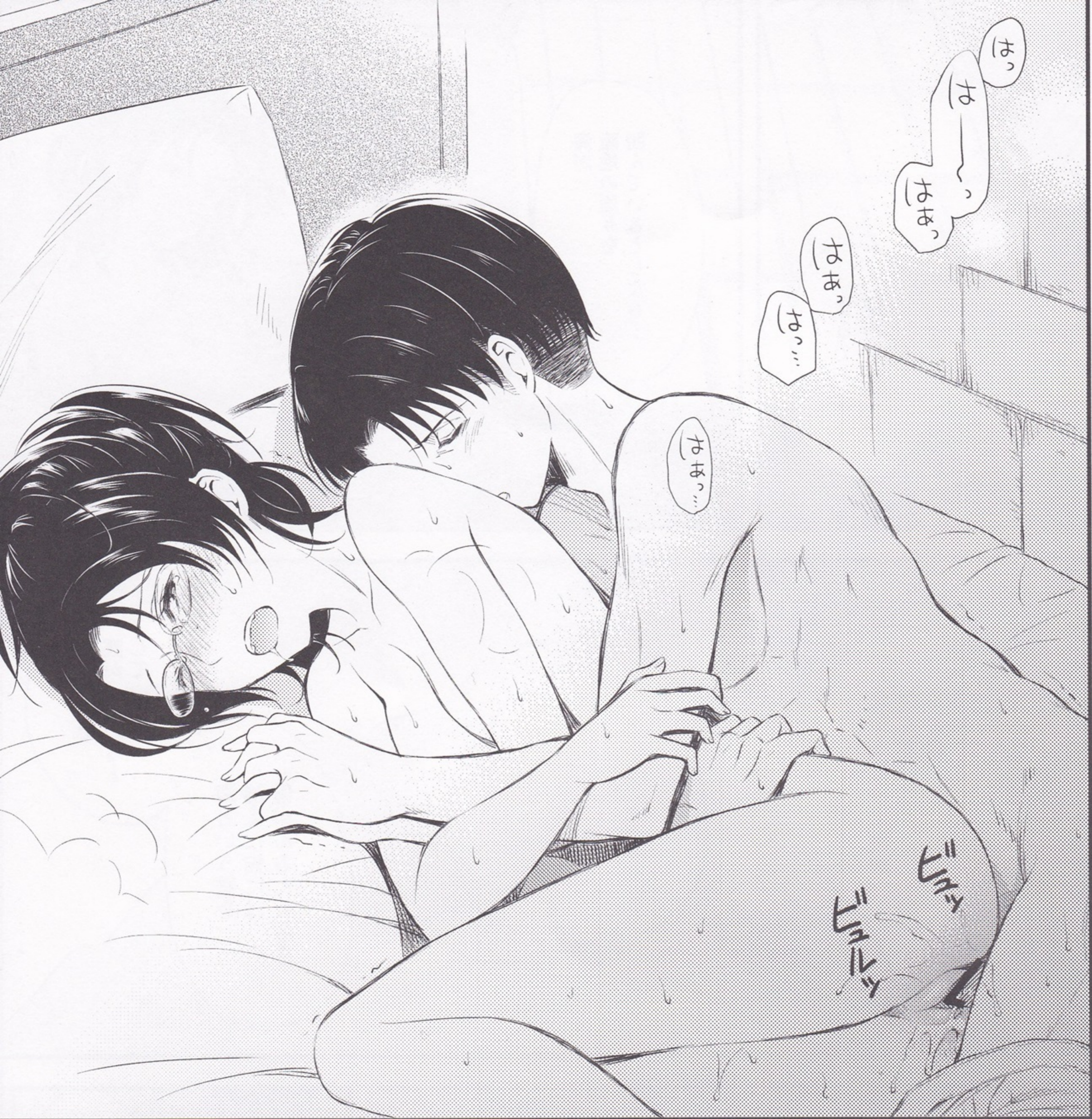
あーっ

ちゅっ

あーっ





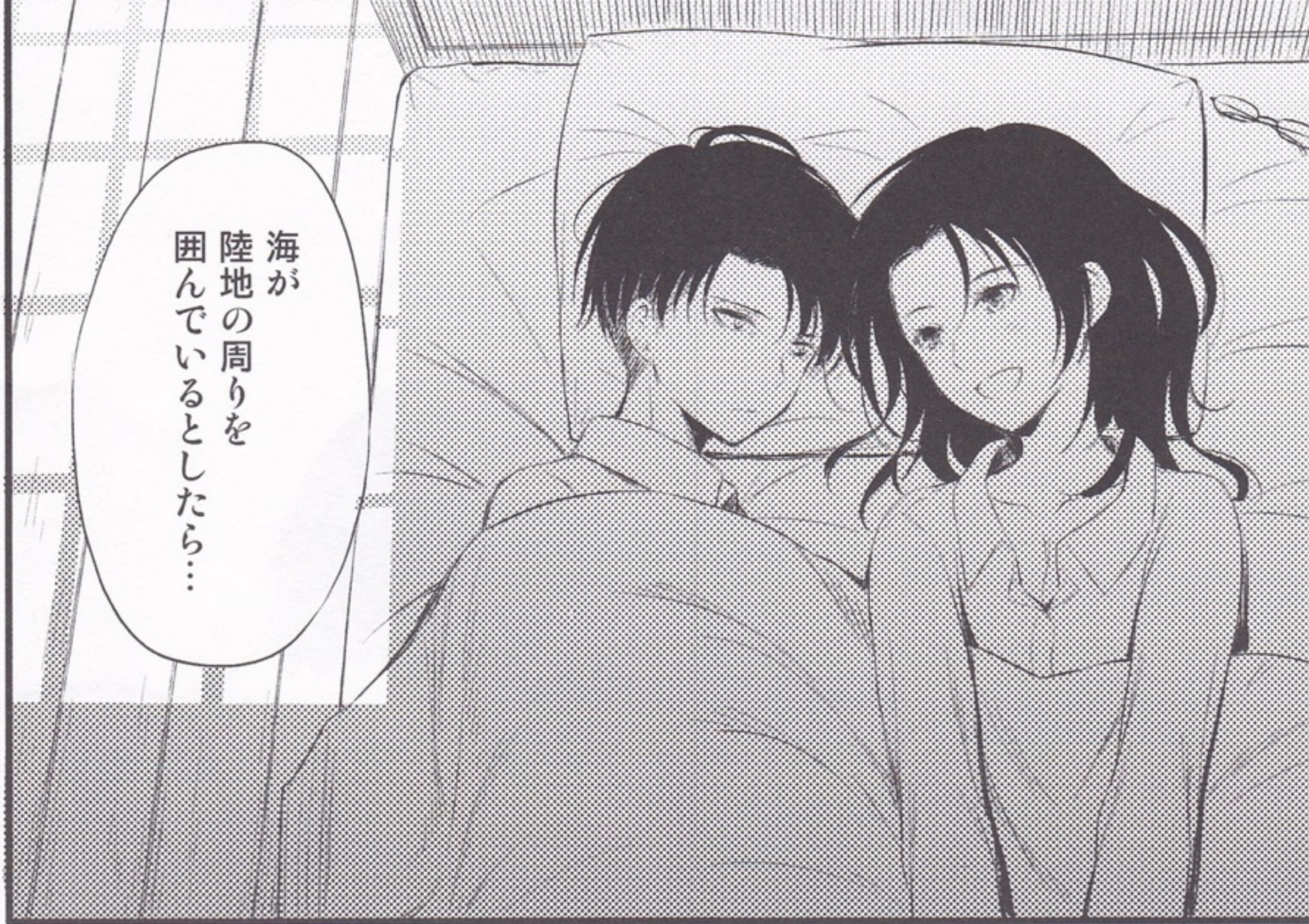


ねえ  
リヴァイ

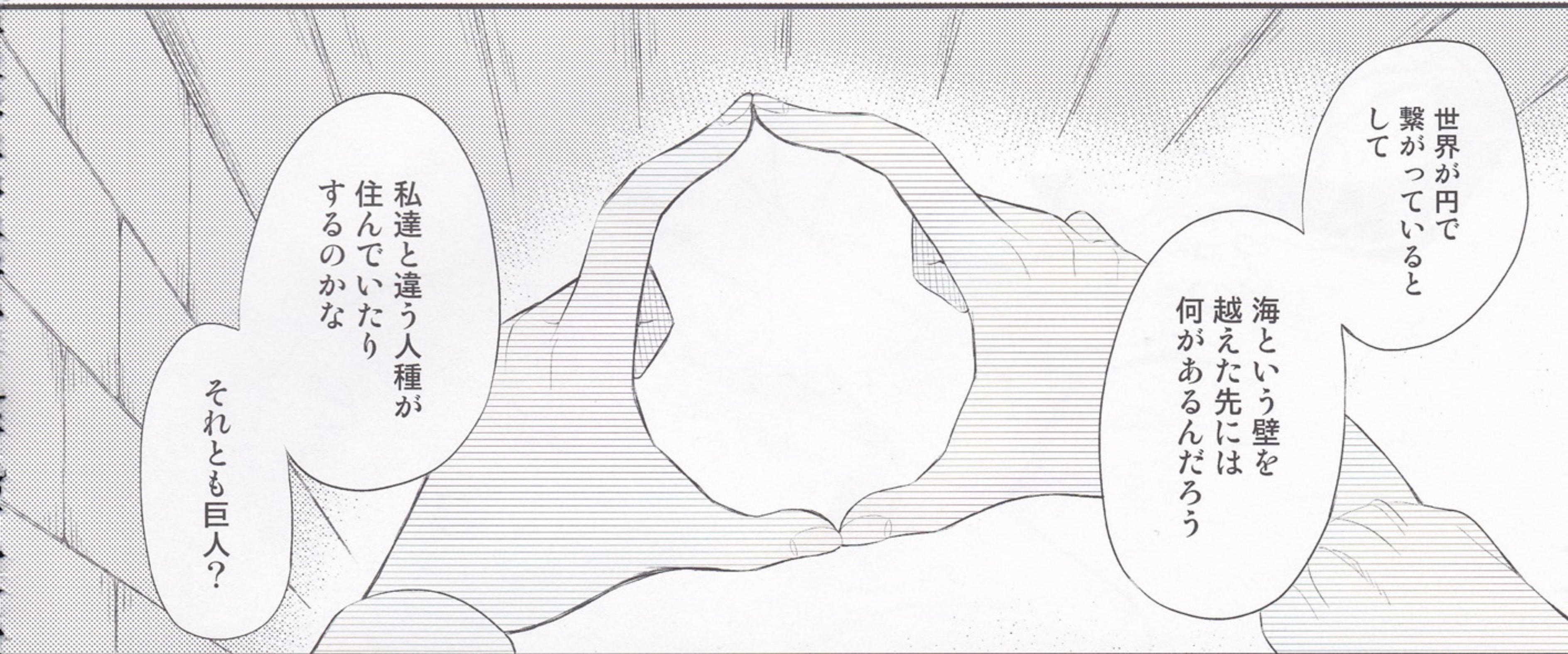
もしね



まるで  
壁みたいだね



海が  
陸地の周りを  
囲んでいるとしたら…

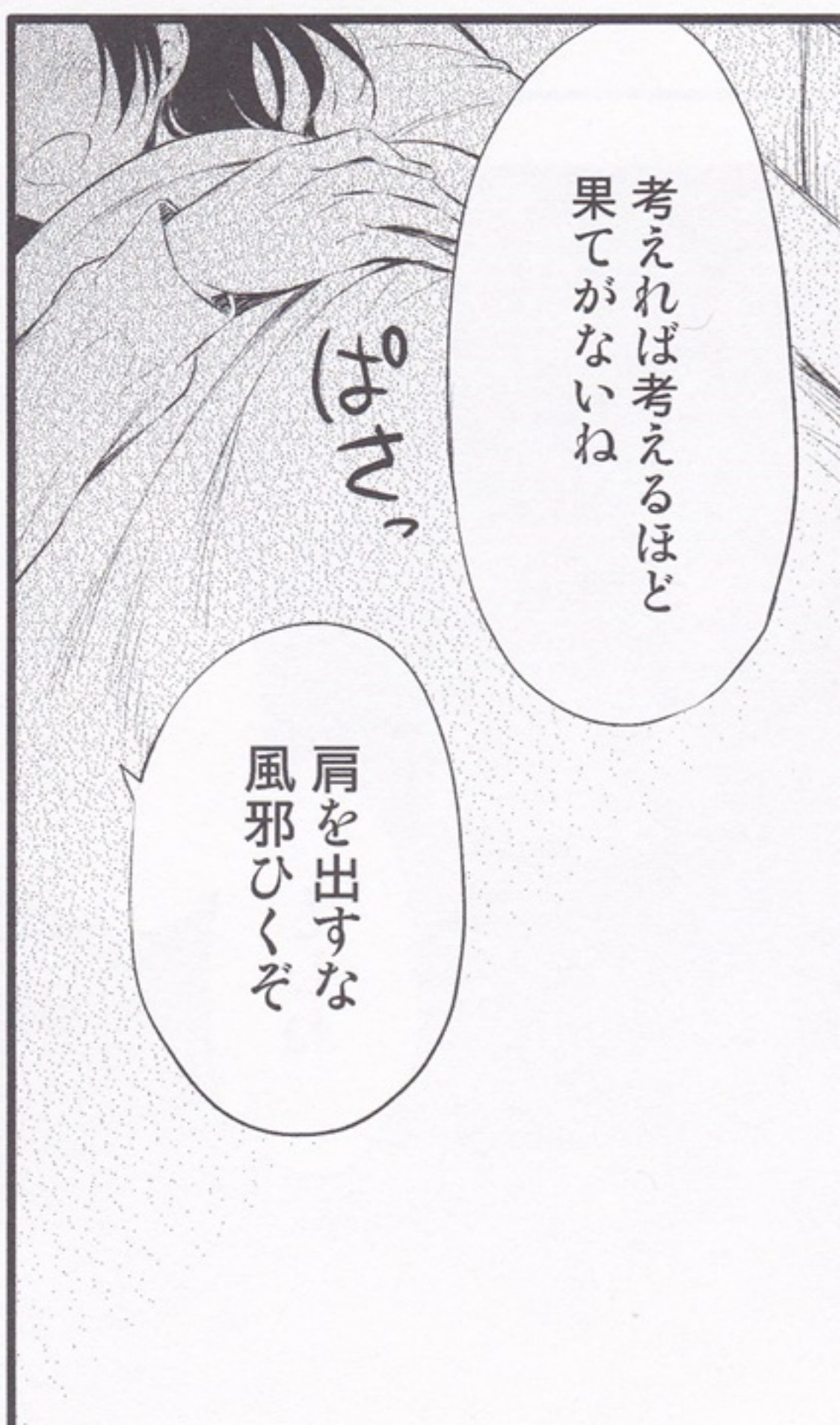


世界が円で  
繋がっていると  
して

海という壁を  
越えた先には  
何があるんだろう

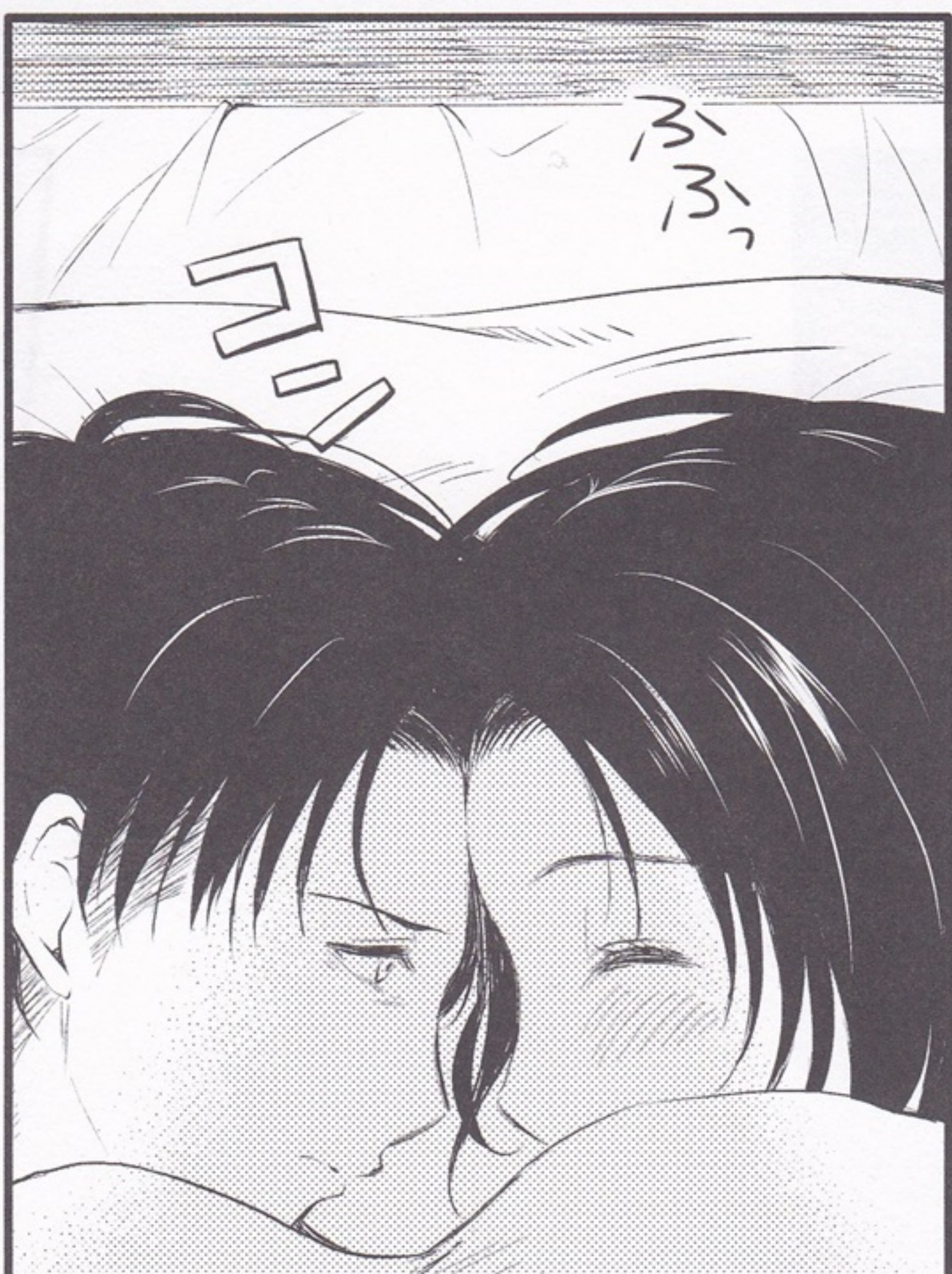
私達と違う人種が  
住んでいた  
するのかな

それとも巨人？



考えれば考えるほど  
果てがないね

肩を出すな  
風邪ひくぞ

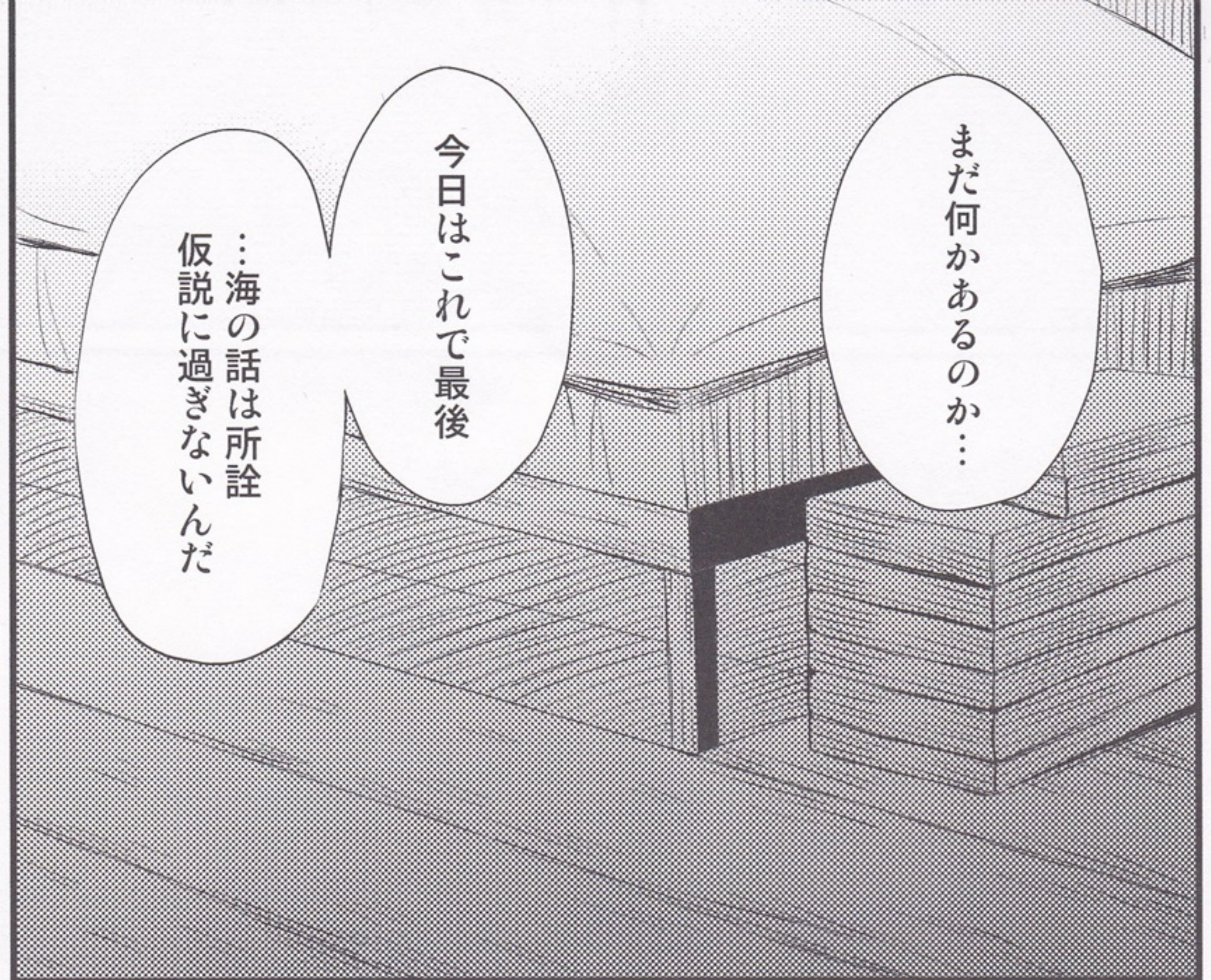


あ

そうだリヴァイ



他の人には  
黙っておいて  
くれるかな



まだ何かあるのか…

今日はこれで最後

…海の話は所詮  
仮説に過ぎないんだ



頼むよ



二人の秘密だね



んなもん  
聞きたい物好きなんて  
居ねえだろ

じゃあ  
リヴァイは  
物好きだ

あ？

^^



さーてとー!



リヴァイは  
優しいね!

茶化してんじゃねえよ  
クソメガネ

違うよ?

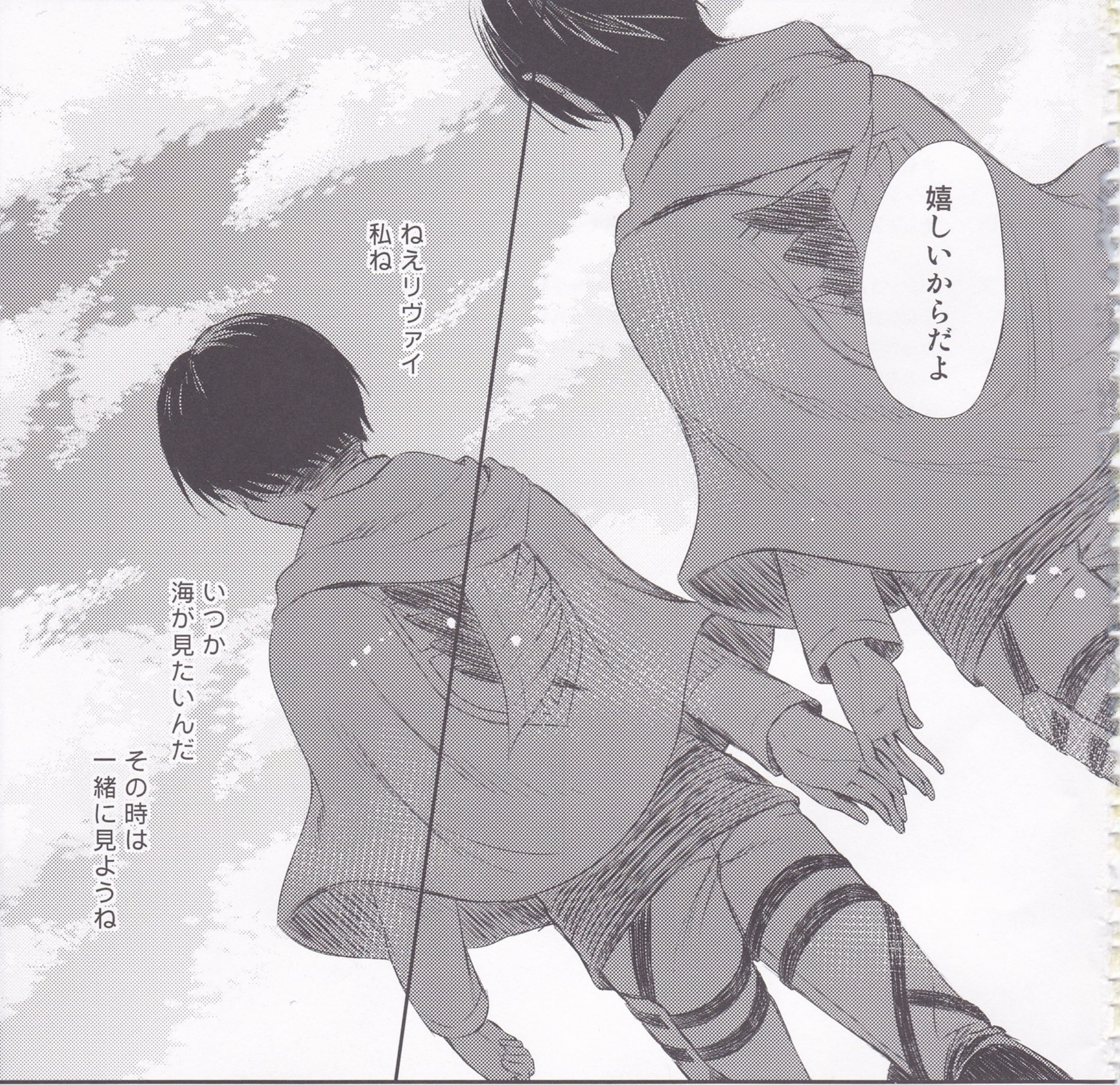


今日も元気に  
調査と行きますか

ハンジ  
はしやくな  
転ぶ







嬉しいからだよ

ねえリヴァイ  
私ね

いつか  
海が見たいんだ

その時は  
一緒に見ようね

そこでまた  
話の続きをしよう

ハンジさんハンジさん言っていたら本ができていました。  
よもや進撃にハマるなどとは思わず  
ハンジさんという素敵な眼鏡に心を奪われ  
そして流れ着いた先はリヴァハンという名のリゾートでした…

ハンジさんが世界のいろんな事とにかく興味がある人で  
そんなお話を眉間に皺寄せながら聞いてあげる兵長という妄想が  
自分の中で熱いです。  
巨人の居ない世界のハンジとかすごく見てみたいですね。  
二人とも生き残っておくれ～  
リヴァハンは可愛いなあ。可愛いなあ。

読んで頂いてありがとうございました。ではでは。

ワールドエンド  
発行日：2013/10/27  
発行：Affix/は一る  
pixiv：7640001  
Mail：affix\_hr@yahoo.co.jp  
printed by ねこのしっぽ